**令和元年度第1回千葉市保健福祉局指定管理者選定評価委員会
第1回医療施設等部会 議事録**

1 日時：令和元年8月21日（水） 午後1時30分～午後4時33分

2 場所：千葉市役所議会棟 第5委員会室

3 出席者：

(1) 委員

高橋和久委員、酒井秀大委員、大道正義委員、岡田敏男委員

(2) 事務局

今泉健康部長、白井保健福祉総務課長、鈴木健康企画課長、始関生活衛生課長、三木生活衛生課長補佐、中田保健福祉総務課主査、堀健康企画課主査、林生活衛生課主査、米元保健福祉総務課主任主事、鴨作保健福祉総務課主任主事、丸木生活衛生課主任主事、渡辺生活衛生課主任主事、福田健康企画課主事

4 議題：

- (1) 部会長及び副部会長の選任について
- (2) 千葉市休日救急診療所について（年度評価）
- (3) 千葉市斎場について（年度評価及び総合評価）
- (4) 千葉市平和公園について（年度評価）
- (5) 募集要項等に対する意見について（千葉市斎場）
- (6) その他

5 議事の概要：

(1) 部会長及び副部会長の選任について

委員の互選により、部会長には高橋委員、副部会長には酒井委員が就任した。

(2) 千葉市休日救急診療所について（年度評価）

千葉市休日救急診療所の年度評価について事務局から説明し、その後質疑応答を行い、委員会の意見を取りまとめた。

(3) 千葉市斎場について（年度評価及び総合評価）

千葉市斎場の年度評価、総合評価について事務局から説明し、その後質疑応答を行い、委員会の意見を取りまとめた。

(4) 千葉市平和公園について（年度評価）

千葉市平和公園の年度評価について事務局から説明し、その後質疑応答を行い、委員会の意見を取りまとめた。

(5) 募集要項等に対する意見について（千葉市斎場）

千葉市斎場の指定管理者の選定に向け、募集要項と管理運営の基準等の内容について事務局からの説明の後、質疑応答を行い、委員会の意見を取りまとめた。

(6) その他

特になし

6 会議経過：

○中田保健福祉総務課主査 本日は、ご多忙のところお集まりいただきまして、ありがとうございます。予定の時刻となりましたので始めさせていただきます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます、保健福祉総務課の中田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります前に、お手元に配付いたしました資料の確認をさせていただきます。

配付資料は、次第、席次表（両面）、委員名簿、及び資料1から5、それから、岡田委員さんに作成いただきました財務状況の資料を机上にお配りしております。また、評価資料といたしまして、事前に緑色のフラットファイル一冊をお配りしております。

不足等がございましたら、事務局までお知らせ願います。よろしいでしょうか。

続きまして、会議の成立について、ご報告いたします。

本日の出席委員についてですが、事前に長根委員より欠席のご連絡を頂戴しております。よって、出席委員は総数5名中4名でございますので、千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に関する条例第10条第2項の規定により、会議は成立しております。

また、市の情報公開条例第7条及び第25条の規定に基づき、本日の会議は、議題（1）から（4）、及び（6）が公開、議題（5）については非公開となっておりますので、お知らせいたします。

それでは、開会に当たりまして、健康部長の今泉よりご挨拶を申し上げます。

○今泉健康部長 健康部長の今泉でございます。本日は、委員の皆様には暑い中、大変お忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。また、委員の皆様には日ごろより保健福祉行政をはじめ、市政各般にわたりまして、多大なるご理解とご支援、ご協力をいただいておりますことをこの場をおかりいたしましてお礼申し上げます。

本日のこの医療施設等部会では、各指定管理者が昨年度に行った管理、運営状況の評価をいただく予定でございます。それからまた、今年度で指定期間が終了する千葉市斎場につきましては、これまでの5年間の総合評価、そして次年度以降の指定管理者を募るための募集要項の内容についても精査していただく予定でございます。皆様には、豊富な経験、専門的な立場からのご意見を忌憚なくいただけますようお願い申し上げます。開会の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○中田保健福祉総務課主査 それでは、議事に入らせていただきますが、本日は改選後、初めての部会となりますので、部会長が選任されるまでの間、仮議長を今泉健康部長が務めさせていただきます。

○今泉健康部長 部会長が選任されるまでの間、仮議長を務めさせていただきます。

それでは、議事に入らせていただきます。

ただいまから、「令和元年度千葉市保健福祉局指定管理者選定評価委員会第1回医療施設等部会」を開会いたします。

最初に、議題（1）「部会長及び副部会長の選任について」でございます。

部会長及び副部会長の選出につきましては、条例の第11条第4項の規定によりまして、委員の皆様のご互選により定めることとなっておりますが、いかがいたしましょうか。

○**大道委員** 私のほうからご推薦を申し上げたいと思います。

部会長には高橋委員を推薦いたします。また、副部会長には、酒井委員を推薦いたします。よろしく申し上げます。

○**今泉健康部長** ありがとうございます。ただいま、大道委員より部会長に高橋委員を、副部会長に酒井委員をとのご発言がございましたが、いかがでしょうか。

(異議なし)

○**今泉健康部長** ありがとうございます。それでは、高橋委員に部会長を、酒井委員に副部会長をお願いしたいと存じます。

それでは、私の任はこれで終了させていただきます。ありがとうございました。

○**中田保健福祉総務課主査** それでは、高橋委員に部会長席に、酒井委員には副部会長席にお移り願います。

それでは、高橋部会長から就任のご挨拶をお願いいたします。

○**高橋部会長** 高橋でございます。ただいま、委員の皆様方のご推挙によりまして、部会長を仰せつかりました。このような重要な委員の部会長ということで、私としては非常に大役ではございますが、皆様方のご協力を賜りまして、職責を全うしてまいりたいと存じますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

○**中田保健福祉総務課主査** ありがとうございます。

それでは、続きまして、酒井副部会長からもご挨拶をお願いいたします。

○**酒井副部会長** ただいま、委員の皆様方からご推挙いただきまして副部会長になりました酒井でございます。皆様のご協力をいただきながら高橋部会長の補佐をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

○**中田保健福祉総務課主査** ありがとうございます。ここからは、高橋部会長に進行をお願いしたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

○**高橋部会長** それでは、初めに本日の審査の流れ等について、事務局よりご説明をお願いします。

○**白井保健福祉総務課長** 保健福祉総務課長の白井と申します。どうぞよろしく申し上げます。恐縮ですが、座って説明をさせていただきます。

お手元の資料1「部会（年度評価）の進め方」をご覧くださいと思います。資料に沿って、年度評価に係る部会の流れをご説明させていただきます。

まず、上から、施設の評価に係る資料の説明でございます。施設所管課から、平成30年度指定管理者評価シートの内容を中心に、昨年度の指定管理者による管理の実績、業務の履行状況などについて、ご説明をさせていただきます。

次に、質疑応答に入りますけれども、ここでは質疑のみを行いまして、ご意見につきましては、その後の意見に係る協議の際にご発言をいただければと思います。

続いて、選定評価委員会の意見に係る協議に入りますが、まず「1 指定管理者の財務状況」からご意見をお伺いいたします。ここでは、指定管理者の倒産、撤退等のリスクを把握するため、法人の財務状況に対するご意見をいただきたいと思います。

協議の流れですけれども、まず公認会計士の岡田委員からご意見をいただきまして、そ

の後に他の委員さんからもご意見をいただき、最終的に部会の意見としての協議、決定を行っていただきます。

次に、その下「2 指定管理者による施設の管理運営」について、ご意見をお伺いいたします。ここでは、次年度以降の管理運営をより適正に行うため、管理運営のサービス向上や業務効率化の方策、改善を要する点、評価する点などに対するご意見をいただきたいと思っております。

協議の流れですけれども、まず委員の皆様からのご意見に対しまして、ご意見ごとに文言の追加、変更等の協議を行っていただきまして、最終的に部会の意見としての決定を行っていただきたいと思っております。

なお、当該意見につきましては、これから見ていただきます評価シートの中で最後「7 総括（3）保健福祉局指定管理者選定評価委員会の意見」という欄がございますけれども、そちらの欄に掲載をさせていただきます、ホームページ等で公表をさせていただきます。

続きまして、資料2「部会（総合評価）の進め方」をご覧ください。

この評価は、各年度において実施した年度評価を踏まえまして、指定機関の最終年度に行うもので、現指定管理者の管理業務の総括をし、次期指定管理者の選定のための評価を行っていただくというものでございます。今回の総合評価の対象となりますのは、指定期間最終年度であります「千葉市斎場」となります。

審査の流れについてですが、初めに施設所管課が指定管理者総合評価シートの内容を中心にご説明をさせていただきます。その後、質疑応答を行った後、意見に係る協議として施設の管理運営への総合評価に係るご意見をいただきまして、最終的に次期指定管理者の選定に向けての意見案の決定を行っていただきます。

説明は以上でございます。

○高橋部会長 ありがとうございます。ただいまの事務局の説明に対しまして、何かご質問等がありましたら、ご発言をお願いします。よろしいでしょうか。

(なし)

○高橋部会長 それでは、議題（2）「千葉市休日救急診療所について」に入ります。まず、施設の評価にかかわる資料について、事務局よりご説明をお願いします。

○鈴木健康企画課長 健康企画課の鈴木でございます。休日救急診療所の指定管理者評価シートについて、ご説明いたします。よろしくお願いたします。恐縮ですが、着座にて説明させていただきます。

それでは、資料1-1をご覧ください。

まず「1 公の施設の基本情報」でございます。条例上の設置目的ですが、大きく二つございます。

一つ目が、休日における急病患者に対し、医療を提供すること。

二つ目が、ねたきり老人、心身障害者等に対する歯科診療を行うことでございます。その他の事項については、記載のとおりでございます。

次に「2 指定管理者の基本情報」ですが、こちらについては記載のとおりでございます。

続きまして「3 管理運営の成果・実績」でございます。（1）成果指標に係る数値目標の達成状況をご覧ください。

指標が二つございます。まずは、上段の利用者アンケートにおいて「休日救急診療所があつてよかった」と回答した割合ですが、目標値95%に対し、実績が93%となっており、目標値には届いておりませんが、目標と同程度のものとして概ね達成と評価させていただきました。

次に、下段の指定管理者が対応可能な苦情の件数ですが、目標値が3件以内のところ、実績がゼロ件と、こちらも目標を達成しております。

(2) その他利用状況を示す指標をご覧ください。

利用者数についてですが、救急患者に対する初期診療は、1万8,114人の方が受診しており、前年度と比べて1,708人の減少でした。

次に、ねたきり老人・心身障害者(児)の歯科診療は623人の方が受診しており、前年度と同数となりました。

休日救急診療所の患者数が減少した要因としましては、近年、市内に休日にも診察ができる診療所が増え、利用者に認知されてきていることが主な原因ではないかと考えております。救急患者に対する初期診療とねたきり老人・心身障害者(児)の歯科診療を合わせた利用者合計は、1万8,737人で、前年度と比べて1,708人の減少でした。

続きまして、次のページをご覧ください。「4 収支状況」になります。

まず、(1) 必須業務の収支状況です。ア 収入の表でございませけれども、合計の上のその他収入、こちらの一番右の欄、主な要因をご覧ください。

他会計振り替えが355万円ございます。これは、千葉市保健医療事業団が収益事業として本市から受託している総合保険医療センターの施設維持管理事業からの振り替えとなります。

次に、イ 支出の表の2段目でございませますが、事務費の欄をご覧ください。

計画と実績の差が約550万円となっておりますが、これは利用者の減に伴い、医薬材料費、消耗品費等が減少したことが不用額の主な要因となっております。その他の項目については記載のとおりでございます。

(2) 自主事業収支状況ですが、こちらは該当がございません。

次のページをご覧ください。(3) 収支状況ですが、これは(1) 必須業務と(2) 自主事業の合計になりますが、自主事業がございませんので、(1)の収入と支出の合計が記載されているものであり、金額については記載のとおりでございます。単年度収支では赤字となっておりますが、昨年度まで単年度で黒字が続き、剰余金が積み上がってきており、今年度の赤字についてはこの剰余金で補填されることから、指定管理者の経営としては問題がございません。なお、赤字の主な理由ですが、指定管理者である千葉市保健医療事業団が今後も事業を持続していくため、将来プロパーの看護師が退職したときの事業引き継ぎに備え、独自の財源でプロパーの看護師1名を雇用していること等によるものでございます。

「5 管理運営状況の評価」につきまして、(1) 管理運営による成果・実績のうち、下段の指定管理者が対応可能な苦情の件数についての評価でございませますが、数値で評価することが困難であるため、アンケート調査結果等を総合的に勘案し、安定的な運営が行われているものとしてB評価としております。

(2) 市の施設管理経費縮減への寄与につきましては、記載のとおりでございます。

次のページをご覧ください。(3) 管理運営の履行状況ですが、主なポイントにつきましては、表中に記載のとおり、概ね管理運営の基準等に定めている水準通りに管理運営を行ったものと認め、C評価としております。

続きまして、(4) 保健福祉局指定管理者選定委員会意見を踏まえた対応ですが、こちらは、前回の選定評価委員会においてご意見がございませんでした。

続きまして、次のページをご覧ください。「6 利用者ニーズ・満足度等の把握」でございます。(1) 指定管理者が行ったアンケート調査についてですが、調査方法、回答者数、主な質問項目については、記載のとおりです。調査の結果は、下の結果欄に記載しておりますが、概ね好評を得ております。

続きまして、(2) 市・指定管理者に寄せられた意見・苦情と対応についてですが、主な意見・苦情及び市・指定管理者の対応につきましては、該当がございませんでした。

続きまして、次のページをご覧ください。「7 総括」についてでございます。

(1) 指定管理者による自己評価ですが、所見欄をご覧ください。利用者アンケートにおける利用者満足度は93%であり、目標値95%に若干欠けておりますが、休日救急診療所の必要度は高いと認識しており、また、対応可能な苦情件数ゼロ件は、患者の立場からの対応を心がけてきた成果の一端と思われる。全体としては概ね千葉市が求めた水準に即した管理運営が行われたものとしてC評価となっております。

次に、(2) 市による評価ですが、所見欄をご覧ください。

診療に携わる医療スタッフと十分に連携しながら円滑な医療を提供していたほか、患者からの苦情がゼロ件であることから医療の提供が適正に行われたものと考えられ、全体としては概ね市が指定管理者に求める水準等に即した良好な管理が行われているものとして、C評価としております。

説明は以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○高橋部会長 どうもありがとうございました。

それでは、まず質疑応答から行いたいと思います。なお、ご意見は後ほどお聞きしまするので、よろしくお願いいたします。

それでは、ご質問がございましたらお願いいたします。

○岡田委員 あらかじめ、書面で質問いたしました事項で、回答いただきましたけど、一応確認のために質問させていただきます。

まず、今説明がありました2ページのところの収支状況の実績金額が3億1,760万9,000円、これ、収入のほうですね。支出のほうは、平成30年度で実績、人件費、事務費、委託費、間接費の合計ですかね、3億2,780万4,000円ということと、一応、これが45ページに決算書がございまして、正味財産増減計算書内訳表、こちらの千葉市休日救急診療所管理運営事項というんですかね、実績は載っております、それと、39ページのほうに指定管理者の決算内訳ですか、指定管理事業決算内訳、収入の部が決算額3億1,760万9,158円。それで、支出の部が決算額のほうの3億1,760万9,158円、収入と支出のほうが同額になっておりまして、47ページの正味財産増減計算書内訳表のほうの千葉市の指定緊急診療所の部門の収入は一致しておりますけども、経費のほうは約1,000万ほど違っておりますということで質問をいたしましたところ、これ、いいですかね、今、一緒に回答。書面に1,019万5,000円一致していない

理由は、市から派遣職員の給料のうち、通勤手当などを市から直接支出ができない費用及び千葉市保健医療が将来の事業継続のため、将来の看護師等が退職した場合の引き継ぎに備えて看護師1名を独自に雇用している費用をこちらの財団の自主財源から使っているためですということに回答をいただきました。ということによろしいですね。

○健康企画課 内容としてはそのとおりです。

○岡田委員 それで、ちょっと、書いてあるので恐縮ですけど、その追加ですけど、そうしますと、39ページの指定管理事業決算内訳というのは、収入と実績が同じですよ。先ほどのこちらの財団の決算のほうは1,000万ぐらい多いと。そうしますと、前もちょっと聞いた記憶があるんですけど、基本的には収入と支出は同じにするということですよ。

○健康企画課 おっしゃるとおりで、市からの仕様書に相当する管理運営の基準に基づいて支出している項目とその収入については同額になるというような形で決算しているところでございます。

○岡田委員 ちょっともう少しすみません。私こういった立場の者として、通常は決算やっていて、同額にはできないはずなんですよね。普通はできないんですよ。だから、多分最後に、未収入金か知らないんですけど、結果的に、収入のほうは変わるんですか。実績に合わせて収入は動くんですか。

○健康企画課 回答させていただきますと、概算払いという制度を使っておきまして、年度の当初に感染症のリスクをある程度考慮した金額でお支払いさせていただきました。その結果、当然患者数が変動して余った金額が発生いたしますので、その金額については精算をさせていただいて市のほうに返納させていただいております。そのため、収支が一致するというような結果になっているところでございます。

○岡田委員 ということは、概算払いの数字を、もし例えば概算払いのほうが多かったら一応返すと。逆に少ないときは追加でいただくということは、3月末現在ですと、市との関係では、未払いになるわけですね。どちらか。概算が多いときと少ないときで。

○健康企画課 それもおっしゃるとおりでございます。

○岡田委員 それと、回答いただいた1,019万5,000円違っているということの原因が、通勤手当など市が直接支出できない費用と、あと、将来の、要するに引き継ぎのための看護師の費用を、こちらについては、財団のほうの、過年度の蓄積した利益から使っている、ということではないんですかね。

○健康企画課 概ねおっしゃるとおりでございます。プラスアルファ、収益事業という会計を別に持っております。その会計からの振り替えで一部財源として補填しているというような決算になってございます。

○岡田委員 私のほうからは以上です。

○高橋部会長 ほかに。よろしいでしょうか。

○大道委員 質問か、あるいは意見かというのはちょっとあれなんですけど、5ページの結果のところ、利用者ニーズ・満足度等の把握の結果のところの上から2番目から4番目までなんですけど、他医療機関との違いという三つ並んだところで、休日加算・初期救急対応・医師の輪番制ということについて、知らなかったという人の数が3割近くということについて、とりあえずこれは、実感としては多いんですか、少ないんですか。

○高橋部会長 質問という形に。

○健康企画課 恐らく、これも本当に実感のレベルになってしまいますが、3割程度の方がまだお知りになっていないという状況はあまり望ましい数字だとは認識はしておりません。休日に救急でかかられるという施設であるという情報については、市民の方々に幅広く知っていただくというような施設の目的を持ってございますので、70%そこらということが決して高い数字だという認識は持っていないところでございます。

○大道委員 そうすると、重ねてお尋ねしますが、どうされたいと、あるいはこれからご検討されるかどうかと、このことについて。

○健康企画課 そちらについても、我々としてできることというのが、現状では周知をして、できる限り知っていただくということで、通常より、市政日より、またはホームページ等において、こういう施設であることについては市民の方々に知っていただく努力は重ねてきているところでございます。あとはもう、見せ方をどのように、インパクトといいますか、印象に残るような形で工夫できるのかということについては、先行団体等、ほかの事例でうまくいっているところがあるかどうか、ここも研究ではございますが、今後調査しつつ、より効果的な方法がないかは勉強してまいりたいとは思っております。

○大道委員 よろしくお願ひします。

○高橋部会長 ほかにご質問がなければ。

○岡田委員 もう一つ、先ほど説明がありましたけれども、一応47ページのほうの正味財産増減計算書内訳表の、結果的に今回660万円マイナスでしたけれども、最終的に今までの剰余金残が2,560万2,000円ほどありますということで、あと何年ぐらいというか、どのぐらいの間にそれを、なくす予定ですかという質問をしたところ、令和4年までということ、あと3年ぐらい。4年ですか。

○健康企画課 今年と同程度の金額が今後もマイナスとして推移するということを想定してございますので、おおよそ4年程度の金額が残額として残っているというような状況とご認識いただければと思います。

○岡田委員 それで、すみません、書いていないことなんですけど、この結果的に、今までの剰余金が貯まったのは、前のときには何ですかね、先ほどお話ししていた実績でやっているとプラスマイナスゼロになるわけですよね。ずっと剰余金は出なかったんですよね。何で貯まったんですかね。

○健康企画課 そちらのほうも、以前は人件費と一部の経費に限り精算をするというような仕組みをとってございました。こちらについては、公益法人で黒字が残るという制度がおかしい、問題があるということで、平成26年度の包括外部監査等でご指摘をいただいております、それを平成30年度に改めて全額を市のほうに返納させる仕組みをつくった。そのため、今年度決算からそのような姿になっているというところでございます。

○岡田委員 ということは、公益財団法人になる前のときの状況なんですかね。

○健康企画課 以前から一定程度残額が残る仕組みについて、市の派遣職員等の関係もありまして、一部の人件費以外の費用は精算せずに残すというような制度を当初からとっていたというものでございます。

○高橋部会長 今後はそういうお金は生じないということですね。

○健康企画課 そのとおりです。

○高橋部会長　　今あるものはだんだん減ってきちゃう、4年ぐらいで。

○岡田委員　　先ほど説明がありましたように、公益法人なので利益を逆に貯めていくとちょっとまずいわけなんですよ。そういうことでよろしくをお願いします。

○高橋部会長　　それでは、ほかにご質問がなければ、選定評価委員会の意見に係る協議に入りたいと思います。

それでは、まず指定管理者の倒産・撤退等のリスクを把握するという観点から、指定管理者の財務状況について、ご意見を伺いたいと思います。なお、事前に事務局から、指定管理者である法人の3年分の決算書類をお配りしておりますが、これらの資料をもとに、まずは岡田委員より専門的見地からご意見をお聞きしたいと思いますので、ご発言をお願いいたします。

○岡田委員　　53ページのほうに、すみません。公益財団法人千葉市保健医療事業団さんの監事の方の斉藤博明さんと監事の岩松琢也さんの監査報告書がついておりまして、前回のときもお話ししたと思いますけど、岩松先生は公認会計士でありますので、お二人の監査報告書で特に指摘する事項がないというんですか、適正であるという監査報告書をいただいております。私の方でも財務諸表を点検した範囲では特に問題ありませんので、適正であると思われま。以上でございます。

○高橋部会長　　ありがとうございます。ただいまのご意見を踏まえ、他の委員の皆様から何かご意見がございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

(なし)

○高橋部会長　　それでは、千葉市休日救急診療所における指定管理者の財務状況に関し、当部会の意見としては、良好であるという趣旨でまとめさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(はい)

○高橋部会長　　ありがとうございます。それでは、その旨決定いたします。

続きまして、指定管理者による施設の管理運営について協議いたします。ここでは、管理運営のサービス向上や業務効率化の方策、改善を要する点、また評価する点などについて、ご意見をお聞きしたいと思います。

それでは、何かご意見はございますか。

○岡田委員　　財務のほうじゃないんですけど、一般的な感想ですけど。先ほど説明があったんですが、1ページの一番下のほうに、何か、利用者の人数が減りましたと。1,700人ですか。約1割でもないですけど、その減った理由の中に、一般の病院でもあれですか。今、土日とか、夜でもやるところが出てきたのでという説明があったんですけど、そういうことでございませうか。減った原因は。

○健康企画課　　ここ数年、祝祭日、または日曜日等に開けているクリニック等ができました。そちらのクリニックについても、できて数年たちましたので、多くの市民の方々にも認知され始めてきているのではなかろうかというような認識を我々としてはしているところでございます。

○岡田委員　　わかりました。

○高橋部会長　　ほかにも。大道先生、先ほどの市民への周知とかというのはどうでしょうか。

○大道委員 それは、ご検討いただくことでよろしいですね。よろしく申し上げます。

○高橋部会長 ほかにご意見はありませんでしょうか。

(なし)

○高橋部会長 それでは、ご発言がなければ、千葉市休日救急診療所における指定管理者の施設管理運営に関し、当部会としては引き続き継続して今までどおり行っていただきたいということよろしいでしょうか。特段の意見なしということで。

(はい)

○高橋部会長 ありがとうございます。

それでは、その旨決定いたします。

次の議題に移りますので、出席者の入れかえをお願いいたします。

(出席者入れかえ)

○高橋部会長 それでは、続いて、議題(3)「千葉市斎場について」に入ります。まず、「ア 年度評価」です。施設の評価に係る資料について、事務局よりご説明願います。

○始関生活衛生課長 生活衛生課、始関でございます。どうぞよろしくお願いいたします。座って説明させていただきます。

インデックス、2-1になります。「平成30年度千葉市斎場の指定管理者年度評価シート」について、ご説明いたします。

初めに「1 公の施設の基本情報」でございます。施設名称は、千葉市斎場。条例上の設置目的は、火葬及び葬儀を行う施設でございます。ビジョン、ミッション等は記載のとおりでございます。

なお、成果指標及び数値目標は選定時に設定をしておりませんので、なしとしております。

次に「2 指定管理者の基本情報」ですが、指定管理者名は、ちば斎苑管理グループで、イーグス・グループ有限責任事業組合を代表団体に、東京ワックス株式会社との共同事業体でございます。指定期間につきましては、記載のとおりでございます。

次に「3 管理運営の成果・実績」でございますが、(1) 成果指標に係る数値目標につきましては選定時に設定しておりませんので、こちらもなしとしております。

(2) その他利用状況を示す指標でございますが、平成30年度の実績といたしましては、火葬件数は前年度を163件上回る8,996件となっております。式場利用件数等その他については記載のとおりでございます。

次のページをお願いいたします。

次に「4 収支状況」でございます。(1) 必須業務収支状況でございますが、ア 収入実績といたしましては指定管理料のみとなりますが、実績額は3億6,537万円で、表の太線の右、計画額の差異は、444万8,000円でございます。主な要因は、光熱水費の削減効果によるものでございます。

次に、下の表、イ 支出の実績でございますが、人件費が8,984万8,000円で、その下、事務費・管理費・委託費が2億5,396万5,000円、表の一番下、合計で3億4,381万3,000円、計画との差異は合計で2,600万5,000円で経費の削減が図られております。要因といたしましては、主に光熱水費の削減等、一部補修を委託せず指定管理者自身により実施したことによるものでございます。

次のページをお願いいたします。(2) 自主事業につきましては、ございません。

次に、(3) 収支状況ですが、二重線の上になります収支は3, 107万8, 000円で黒字となっております。利益の還元額につきましては、光熱水費以外の部分について余剰金が総収入の10%を超えていないため、還元はございません。

次に「5 管理運営状況の評価」でございます。(1) 管理運営による成果・実績につきましては、選定時に設定しておりませんので、こちらもなしとしております。

次のページをお願いいたします。(2) 市の施設管理経費縮減への寄与ですが、特記事項に記載のとおり、提案額の3.1%の削減となっておりますので、下の点線囲みの評価の内容により、5%未満の削減となっておりますので、評価はCとなります。

次に、(3) 管理運営の履行状況ですが、いずれの評価項目も指定管理者の自己評価はC、表の下、点線囲みの評価内容で、概ね水準どおりに管理運営が行われているとの評価でございます。

次に、市の評価ですが「3 施設の効用の発揮」の(1) 幅広い施設利用の確保につきましては、本年の1月から2月にかけて、火葬件数が増加したことに伴い予約が取りづらい状況がございましたが、これに対応するため開場時間を延長するなど柔軟な対応を行ったことからB、水準を上回る管理運営が行われたとの評価をいたしました。その他の項目はCの評価としてございます。

次に、(4) 選定評価委員会の意見を踏まえた対応でございますが、選定時の当委員会のご意見で、指定管理料に係るグループ全体の決算書の整合性がわかる報告書の作成とのご意見をいただいております。昨年度これに対応として、構成団体ごとの収支計算書の添付をしております。

次のページをお願いいたします。「6 利用者ニーズ・満足度の把握」についてでございます。(1) 指定管理者が行ったアンケート調査の結果についてですが、まず、実施内容ですが、調査方法は火葬と待合室、式場と業者控室にアンケート用紙を配置するとともに、斎場職員が利用者から聞き取った情報ノートにより調査を行っております。回答者数はアンケート用紙での回答が22件、聞き取りによる意見聴取が82件となっております。アンケートの質問項目は、施設、職員についてと、その他要望等としております。

結果でございますが、回答者は遺族、会葬者、葬祭業者等で、施設関係では携帯電話の電波が入りにくいのご要望がございました。職員関係では、業務の丁寧さや対応のよさ、特に収骨業務時の対応についてお褒めの言葉をいただいております。

(2) 市及び指定管理者に寄せられた主な意見・苦情と対応につきましては、携帯の電波が入らないこと、それから、トイレの場所がわかりづらいなどのご意見をいただいております。携帯電話の電波につきましては、電波増幅装置の設置や館内の案内表示をふやすなど対応をしております。

最後に「7 総括」でございます。(1) 指定管理者による自己評価についてですが、評価はCで、概ね良好な管理運営が行われているとの評価をしております。

所見といたしましては、故人様への尊厳を保つため、社内テストを合格した者がセレモニーを行うこととし、業務の質の向上を図り、利用者から高評価をいただいていること。次に、火葬中のデレキ操作、これはL字型の金具でご遺体を焼いている間にご遺体をならす操作になりますが、これを極力行わない火葬を行ったこと。火葬予約をウェブ上で行え、

空き状況もウェブ上で確認できるようになり、より透明度の高い予約の管理が行えていること。年々増加している火葬件数にもかかわらず、光熱水費等の維持管理のコストは昨年度より抑えたことなどが指定管理者の自己評価の意見となっております。

次に、(2)市による評価でございますが、こちらの評価もCで概ね良好な管理運営が行われているとの評価をしてございます。所見といたしましては大きなトラブルもなく管理運営が行われたこと。火葬件数が増加傾向にある中、経費の削減が図られていること。利用者からのご意見を聞き、改善意識を持ち、業務を行っていること。社内テストの実施や研修・訓練を通じて、職員の育成を図り、資質の向上に努めていること。予約システムにより状況把握に努めていること。備品、消耗品の管理や個人情報の管理が適切に行われていることなどの点について評価をしてございます。

以上が千葉市斎場の年度評価でございます。どうぞよろしくお願いたします。

○高橋部会長 どうもありがとうございました。それでは、まず、質疑応答から行いたいと思います。

ご質問がございましたら、お願いたします。

○岡田委員 57ページ以下に収支報告書は載っているんですけども、57ページに千葉市斎場収支報告書、ちば斎苑管理グループ、こちらのほうの収入の欄を見ますと、3億6,981万8,000円ですかね。これはたしか、計画の数字でしたよね。この収入は、3億6,981万8,000円か、計画で、下のほうに書いてあるのが、何か、たしか数字見たとき実績だったんですけどね。そういうことでよろしいんですか。収入は計画で、支出は実績と。

○生活衛生課 当初お渡ししている指定管理料が、こちら3億6,981万8,000円でございます。その中から支出したものが下の欄の記述になっております。

○岡田委員 決算的には3月ですよ。3月で、この下の欄を見ますと、6月から5月になっているんですよ。これは4月と5月が前のほうにいくんですかね、後ろへ行くんですかね、これは。何か、支出のほうで6月から始まって翌年の5月まで数字が載っているんですよ。何か、ですから二月ずれているみたいなんですけど。そのことは。

○生活衛生課 こちら、役所の会計年度ですと、30年度に係った経費といたしましては、4月支払い、5月支払いのものに関しましても30年度の会計と支出といたしますので、役所の会計に合わせますとこちらの収支報告書のとおり、4月、5月に支出したものに關しましても30年度の会計となるような状況でございます。

○岡田委員 ということは、これ、あれですか。支出のほうは支払いベースということなんです。そういう意味ですか。

○事業者 指定管理者の日高と申します。現金主義で会計をさせていただいておまして、給与のお支払いというのが2カ月遅れなんです。4月分のお給料が支払われるのが6月になってくるので、3月のお給料というのが5月の支払いになったり、あと、3月に控除したものであるというのが4月末日の請求がきて5月に支払いとかそういったものがありますので、ちょっと期ずれというか、あくまで30年度に使った収支であることは間違いはないんですが、この収支報告のつくり方をこういうふうにつくらせていただくと30年度の4月というのが発生してこなくて、最後、この後ろのほうに収支がのっかってくるという形になります。

○岡田委員　　そうしますと収入がですね、3月までということは、収入のほうがあればなんです。ちょうど毎月3月分は3月に入金があるという、そういう意味ですね。

ずれはないと。経費のほうは2カ月ほどずれていると。ただし、決算的には3月決算で全て未払金以外は計上されているということですね。

○事業者　　はい、そうです。

○岡田委員　　わかりました。はい。ちょっと少し置きますか。何か質問がありましたら先にどうぞ。

○大道委員　　何点かお尋ねしたいんですけど、この斎場はできてから何年たつんですか。

○三木生活衛生課長補佐　　平成17年の6月竣工ですから、14年ちょっとぐらい。

○大道委員　　14年ぐらいですね。ちょっと過剰な心配になるかもしれないんですけども、施設・設備に関して経年的な何か変化というのが、把握が業者さんとか生活衛生課のほうで把握されているようなことはございませんか。

○始関生活衛生課長　　火葬炉についてはですね、かなり経年劣化してきていますので、年度ごとの計画修繕を立てて、今までも実施しているところでございまして、その辺は報告を受けながら、対応をしているところでございます。

○大道委員　　ありがとうございます。

なぜそれをお尋ねしたかという、設備・機械・器具に関しての細かなお話がこれに載っていないので、今、たまたま火葬炉のお話になったんですけども、斎場全体の話として経年的な、例えば、先ほど変化と言いましたけれど、劣化とかでちょっと気がついていることが、その管理をされている業者さんとか生活衛生課のほうで何かございませんかというのでお尋ねしたんですが。まだなければ、ないで結構ですけど。

○始関生活衛生課長　　大きなところについては、月次報告なりで指定管理者のほうから受けていまして、例えば昨年度だったかな、雨漏りを直したのは。エントランスの部分で、ちょっと雨漏りがしてまして、そういった修繕なんかについては月次報告とか年次報告の中で受けて予算化を図るものは図りながら対応をしているというところでございます。ただ、その他については大きなところは今のところはないというところですよ。

○大道委員　　お尋ねした原因の一つは、気候の変動がかなり大きくて、気温も今年、特に高い日にちが続いているんですけども、雨量の短時間での降り方というのがかなり以前と違ってきているというようなこともありまして、そういうことに対して、例えば警報が出るようなことがあったときに従前の対策として何か具体的なことをこう練っておられるのかどうかとか、あとはあそこの敷地自体が例えば水がたまるようなことがご懸念としてはないのかどうかということをお尋ねしたかったんですけど。

○始関生活衛生課長　　排水等については、今まで特に問題になったことはないです。例えば、下水道部門のほうで、もし下水管がもうその地域のものがないということであれば、何かしらのお話があるような形にはなりませんので、今のところそういったことはないです。それと、一応、あそこの土地については若干前の遊休地と言うかですね、よりも高台になっているので、浸水等の被害はないものと思っております。

○岡田委員　　施設的にはあれですか。全部、千葉市の施設なんですか。そこの斎場については。施設と言うとおかしいですけど、建物とかは千葉市の施設で。指定管理者さん、先ほど修繕費があったんですけど、修繕費は指定管理者さんが負担するということなんで

すか。ちょっとそこら辺の関係はどうなっているんですか。

○生活衛生課 施設の修繕に関してですが、大規模な修繕及び市の計画的保全事業として建物長寿命化に係るものに関しましては市のほうの負担により行いまして、日常の不具合の修繕等に関しましては指定管理者側で行うこととなっております。

○岡田委員 特にじゃあ、今、市のほうでやった修繕は特にないということですかね。大規模なものはあまり。そこまでは。大規模な修繕、要するに市が負担するような修繕というのは特にないということで。

○生活衛生課 30年度は雨漏りの修繕、先ほど申しました雨漏りの修繕を行いまして、その前、28年度は空調の修繕等、市の負担で行っております。

○岡田委員 雨漏りと空調は、じゃあ市のほうでやったんだ。

○生活衛生課 はい。その他、建物に対して躯体等大きな修繕に関しては市の負担で計画を立てて行うということでございます。

○岡田委員 続きまして、ちょっと事前に質問書にも書いてあるんですけど、前の年度でも聞いているんですが、これ、決算書で東京ワックス株式会社さんは決算期をこれ10月決算なんですよ。10月決算で決算書はここに載っております、先ほどの収支決算書とか指定管理者のほうの千葉市の関係は3月決算ですから、3月でこう収支が出ておまして、非常に難しいのはわかるんですけど、この決算書が10月決算で指定管理が3月で、しかもこの決算書のちょっと内訳みたいなのが載っておりませんので、だから先ほどの千葉市斎場のほうの収支決算とか、この指定管理の収入と実績の報告の用紙がありますけど、これは東京ワックスさんの決算の中に入っていると考えるとよろしいんですか。それともこちらのもう一つある、イービス・グループさんですか。細かいことはいいんですけど、決算にはどういうふうに関係しているかちょっともしご説明できましたら。あるいは、一旦、東京ワックスさんのほうに計上されてまたイービスさんのほうに何か別な形でいくとかわかりませんが。

○事業者 イービス・グループの秋山と申します。

売り上げに関しましては、一旦、イービス・グループのほうで千葉市さんからお受けしていますので、そちらに関しての売り上げは、一旦、イービス・グループのほうに入る形になっております。それは決算書の売り上げの中に含まれます。

支出に関しましてですが、当然、施設管理の部分を東京ワックスさんにやっていただいておりますので、そちらのほうで発生する支出というのは東京ワックスさんの販売管理費、もしくは製造原価の中に組み込まれておりますでしょうし、イービス・グループのほうといたしましても、水道光熱費ですとか日々の消耗品ですとかそういった千葉市斎場の管理に係る支出に関しては、決算書の中に入り込んでおります。

○岡田委員 東京ワックスさんのほうでどっちかというイービスさんのほうから委託を受けた感じで、よろしいんですか。

○事業者 共同事業ですので、委託という形ではないんですけども、代表企業として、一旦、売り上げを全部入金いただくのは、イービス・グループ。イービス・グループの場合別口座で管理している口座なんですけども、その中から毎年度、東京ワックスさんとの協定で結んだ金額を12カ月割りでお支払いいたしまして、東京ワックスさんのほうは施設の管理に係る費用をその都度会社のほうで支出計上しているという形になっております。

○岡田委員 続けてもう一つご質問しました、イージス・グループ有限責任事業組合さんの31年3月期の決算で、これはイージスさんのほうが悪いとかではなくて、一般論の話です。今言うのは、一般論ですと、要するに仮払金とか借受金というのは通常は決算のときに整理する。だから決算書を見て仮払金とか借受金があんまり残っていると普通、会計専門家としてもこれは何だろうとか、逆に費用に落とすんじゃないのかという、こういう疑問を抱いてしまうので、ちょうどたまたま仮払金と借受金が1億円ぐらい残っていたのでご質問したんですけど、これの回答を見ますと、構成企業への仮払いは一種の貸し付けみたいなものでよろしいですか。借り受けは逆ですかね。

○事業者 そうですね。ただそれをグループ間での資金援助というところで、確かにおっしゃるとおり3月期の時点では、借り入れ、もしくは貸し付けに整理するのが正しいことだと思います。前年もしくは過去までは、ごめんなさい。この計上は3月期のものは整理してあったんですけど、今回、実際の報告する段階まで会計士さんとの打ち合わせ上、整理することがないまま、そのまま残った形での報告になっておりますが、前年までと内容的には同じでございます。グループ内の企業への仮払い、グループ内企業からの借り受けというところでございます。

○岡田委員 わかりました。

あと、法人税申告書につきましては先ほどコピーをいただきましたので、内容を検討させていただきますのでありがとうございます。

以上でございます。

○事業者 求められた資料と全く同じものでは当然ないんですけども、有限責任事業組合として用意できる書類はそちらになりますので、そちらを提出させていただきました。

○大道委員 もう1件すみません。5ページのですね、7の総括の指定管理者による自己評価の右の5行目にですね、火葬中のデレキ操作を行わない火葬を行いました。極力行わない方法にしましたということが書かれているんですけど、これでその火葬の時間が延びるとかというようなことはないんですか。

○事業者 イージス・グループの徳尾と申します。よろしく願いいたします。デレキ操作を極力行わないようにしているんですけども、火葬時間の延長というようなことは特になくてですね、バーナーの角度で工夫をしたりですとか、そういったところで適切な火葬を行っております。

○大道委員 わかりました。ありがとうございます。

以上です。

○高橋部会長 ほかにご質問。

○酒井副部会長 委員の酒井です。本年度から見させていただいているので、ちょっと基本的な質問で申しわけないんですけど、この成果指標数値目標は、今回、設定がなかった理由は何でしたでしょうか。すみません。

○始関生活衛生課長 指定管理者制度全体の庁内での見直しがありまして、当初は特に設けてはいなかったんですが、現行では数値指標を設けるような形になっていまして、今期の選定の際にはちょっとそこは設けていなかったと。様式がちょっとかわったところですね。たしか28年だったと思うんですけども。

○酒井副部会長 今回、募集するに当たってはこれは数値目標とかは設定はされるとい

うこと。それはどこを見ればよかったですっけ。

○始関生活衛生課長　そこは今回は年度評価でしたので、そこは出てこないです。

○酒井副部長　それは次回の委員会。

○始関生活衛生課長　今回、後で議題になります。

○酒井副部長　それと関連してというか、アンケート調査の方法に関しては、回答数とかについてはあまり施設の特性とかからしてそんなにアンケートとか取りにくいのかなというふうな印象も持っているんですけども、これはもう少し調査の方法とかって工夫されるような予定というのはあるんでしょうか。

○事業者　はい。今、投函を待っているだけとか、そういった状況になっているので、もっとこちらから自動的にとといいますか、葬儀社さんへ対して**ファックス**でアンケートを取ったりとか、そういったのを今、計画しているところでございます。

○酒井副部長　ちょっと追加なんですけど、その利用者、葬儀社さんじゃなくて、利用する人からの満足度というか意見とかというのを聞く方法というのは何かあり得るんでしょうか。

○事業者　はい。ほかの自治体などではアンケートの強化期間ということで、あくまでこれもその場でお別れしているときにとか収骨の後にというのはなかなか難しい部分があるので、葬儀社さんに対して利用された方に、終わった後にこういうアンケートを取ってくれないかというところで1カ月間やったりしている自治体もあるので、そういったのも含めて検討はしていきたいと思います。

○酒井副部長　今、意見の収集率ってかなり低いと思うんですが、これは増やすことは可能ということですか。

○事業者　可能です。

○酒井副部長　わかりました。

○高橋部長　ほかにご質問は。

○岡田委員　1ページのですね、ちょっとご説明があったかもしれない。聞き漏らしたか、1ページ下のほうで利用状況を示す指標のところですね、火葬件数はふえておりますよね。29、30年に比べますと。ところがですね、霊安室利用延べ日数というんですかね、ここがなんか大分減っているんですけど、何か理由はあったんですか。その下の霊柩車利用件数とか。なんか、火葬件数はふえているんですけど、こちらは減っているみたいなので。

○始関生活衛生課長　霊柩車につきましては、民間の霊柩車とそれから霊安室ですね。民間のものが大分普及してきまして、具体的に詳細な理由はわからないんですけども、民間のものが増えてきたというところで、この辺は減ってきているというところだと思っております。

○岡田委員　経費に関しては何も影響しないですかね。

○始関生活衛生課長　経費については影響はないですね。こちらの使用料については直接千葉市のほうの歳入に入ってくる形になりますので。

○岡田委員　減ったからって、費用が減るとか増えるとかは関係ないと。指定管理のほうについては。

○始関生活衛生課長　はい。

○高橋部会長 ほかにご質問はありませんか。

(なし)

○高橋部会長 それではご質問がなければ選定評価委員会の意見に係る協議に入りたいと思います。先ほどかなりお話しいただきましたけれども指定管理者の財務状況について岡田委員よりご意見をお聞きしたいと思いますのでご発言をお願いいたします。

○岡田委員 一応、内容について先ほどご確認した結果、私の知り得る範囲においては適正であると思います。

以上でございます。

○高橋部会長 ありがとうございます。ただいまのご意見を踏まえ、他の委員の皆様から何かご意見がございましたらお願いいたします。

(なし)

○高橋部会長 それでは、千葉市斎場における指定管理者の財務状況に関し、当部会の意見としては、良好であるという趣旨でまとめさせていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

(はい)

○高橋部会長 ありがとうございます。それでは、その旨決定いたしました。

続きまして、指定管理者による施設の管理運営について、何かご意見はございますでしょうか。

○岡田委員 去年の続きの、今年、努力いただいたんですけど、先ほどの収支決算書というのは確かにね、現金支出だから二月ずれてしまうというお話でわかるんですけど、何かですね、最終の決算書と関連できるようにね、もし工夫ができましたら来年、よろしくお願いたいたんですけど。何か、この数字は最後のこの数字と合うんですよとか、あるいは決算書のこの数字と合うんですよというね、もし説明ができるような数字ができればいいんですけどね。

○事業者 昨年度もそのご意見をお伺いしまして、特に我々のグループだと、一つの会社さんですと完全なる部門管理ということもできると思うんですが、まず共同事業体であることと、もう一つ、代表企業である我々イージス・グループ有限責任事業組合という形をとってまして、その組合自体が七つの法人で構成されていますので、極端な話、斎場で働いている方というのは代表企業、イージス・グループ有限責任事業組合の組合法人であるNSK株式会社のほうで人件費が出ておりますので、LLPのほうにその方の給料というのは計上されません。ですので、LLPの決算書の中で例えばその部門管理をいたしましても、斎場単体の収支状況の報告と合致させるのが非常に難しいというか、そこではもう収まらないものになっております。

斎場の収支状況というのは、LLPで預かりました売り上げ、LLPのほうで払った消耗品、もしくはNSKで払った給与、東京ワックスさんで払った委託費というものを全て合算したもので一つの斎場の管理費として計上しておりますので、どうしても、来年のまた課題になるのかもしれませんが、決算書上でその斎場の収支報告書と合致させるというのは、恐らく、申しわけないんですがちょっと無理かなというのが弊社の意見でございます。

○岡田委員 一応、了解しますけども、できるだけ努力して少しまたわかりやすい表を

つくっていただくようよろしくお願いいたします。

○始関生活衛生課長 1点だけよろしいですか。指定管理の評価委員会の中で、経理を見ていただいているというところは、事業の継続性や事業の撤退の危険がないかどうか、その観点で見ていただいていますので、何とかご理解をいただければと思っております。

○岡田委員 私が公認会計士として言っているのは、要するに数字が正しいかどうかというのを確認するためには、やっぱり決算書と、例えばこの決算書とこれであっていますよと。こういうふうに言うと、非常に信頼性があるんですね。だから、言葉は悪いかもしれないけど、全く勝手な数字をつくっていると、決算書は決算書だと言われてしまうとあなた方、何をしたんですかと言われてしまうので、やっぱり、データ報告は決算書と一致しているんですよということになると、そうするとこの収支報告が正しいと、逆に正しいので継続もできるという、今おっしゃったとおりになると思うのでよろしくお願いいたします。はい。

○高橋部会長 ほかにご意見はありますでしょうか。

(なし)

○高橋部会長 それでは、ご発言がなければ千葉市斎場における指定管理者における施設の管理運営に関し、当部会の意見としては、今のことをいれましょうか。会計報告をよりわかりやすくする努力をしていただきたいというような。

○岡田委員 そうですね。よろしくお願いいたします。今のお話を聞いて相当難しいということもわかりましたけど、一応。

○高橋部会長 引き続き、わかりやすい報告、いい努力をしていただきたいということで、大道先生よろしいでしょうか。

○大道委員 はい。

○高橋部会長 そういう趣旨でまとめさせていただきたいと思います。ありがとうございました。それでは、その旨決定いたします。

千葉市斎場年度評価については以上でございます。

続きまして、「イ 総合評価」に移ります。まず、施設の総合評価に係る資料について、事務局よりご説明をお願いします。

○始関生活衛生課長 引き続きよろしくお願いいたします。

インデックス2-5をご覧ください。2-5になります。

第3期の斎場の指定管理者総合評価シートについてご説明いたします。指定期間はあと1年ございますが、各年度において実施いたしました年度評価を踏まえ、指定期間の最終年度におきまして現指定管理者の管理業務の総括の評価を行うとともに、次期指定管理者の選定に向けて導入の効果や課題等をまとめるものでございます。

まず、評価対象期間でございますが、今期の指定管理を開始いたしました平成27年4月から本年度3月末までとなっております。

「1 基本情報」につきましては年度評価でご説明をしておりますので省略をさせていただきます。

次に「2 成果指標等の推移」についてでございますが、(1)、(2)につきましては選定時に成果指標を設定しておりませんので省略をさせていただき、(3) 成果指標以外の利用状況を示す指標でございますが、火葬件数につきましては記載のとおり年々増加傾向と

なっております。

次のページをお願いいたします。

次に「3 収支状況の推移」でございますが、収入は全額指定管理料で表の一番右上、4年間の実績額は合計で14億3,610万4,000円でございます。これに対しまして、支出は表の真ん中、二重線の一つ上、4年間の収支の実績は、13億6,763万8,000円で、斎場には自主事業はございませんので、その下、収支は6,846万6,000円の黒字となっております。

次のページをお願いいたします。

次に「4 管理運営状況の総合評価」でございますが、評価項目の「2 市の施設管理経費縮減への寄与」につきましては、提案時よりも光熱費の削減により施設管理運営経費が縮減されたことによりB評価、期待を上回る管理運営が行われていたと評価をしております。その他の項目はC評価、期待どおりの管理運営が行われていたと評価しております。

次のページをお願いいたします。

最後に「5 総合評価を踏まえた検討」でございますが、(1)指定管理者制度導入効果の検証につきましては、当初、見込んでいた効果が概ね達成できたとし、判断の理由につきましては、本施設においてはサービス向上及び効率的な管理運営を指定管理者制度導入の効果として見込んでおりました。サービス向上に関しては社内テストの実施や研修、訓練を通じて従業員の育成を図り、資質向上を通じてサービスの改善に努めるなど、ノウハウを活用した業務改善に努めており、市の苦情の状況やアンケートの結果を踏まえると効果があったものと評価できること、また、効率的な管理運営に関しては当初提案額より管理運営経費を5.5%縮減するなど成果が得られたことなどから、当初、見込んでいた効果が概ね達成でき指定管理導入の効果が得られたものとしたものでございます。

(2)指定管理者制度運用における課題・問題点ですが、冒頭にご説明したとおり、火葬件数が年々増加していることから、今後、開場時間の延長や火葬炉の稼働について今まで以上に市と指定管理者の綿密な連絡調整が必要となること、また、西日本で多く見られる、ご遺骨の部分収骨や家族葬、また火葬のみとり行う方など、利用者のニーズの多様化に対応できるよう、現状の施設運用を見直す必要がございます。それに伴い、指定管理者においても窓口対応等に際して、多様な価値観に配慮することが求められることが上げられます。

最後に、(3)指定管理者制度継続の検討でございますが、指定管理者制度導入の効果が得られたことから、所管といたしましては継続したいと考えております。

説明は以上でございます。よろしくをお願いいたします。

○高橋部会長 ありがとうございます。

それでは質疑応答から行いたいと思います。ご質問がございましたらお願いいたします。

○岡田委員 収支状況の推移で、94ページですか。こちらは今、ご説明あったように収入と支出で差額はずっと収入が多いというんですかね、支出額がずっと出てきているんですけど、毎年支出額が出ているということは、実際のかかっている費用のほうが少ないということですよ。こちらのグループで使っている費用が少ないと。指定管理料よりも少ないと。ある額を超えた場合は、たしか市のほうに返還なんですよ。返還なんで、そ

ここまでいっていないということですよ。そこまではいっていないんだけど、毎年、素人的にこう考えて赤があったりプラスがあったりこうあって、なんか平均するとこうなるよというのだったらわかるんだけど、ずっと毎年毎年プラスというのは、ちょっと言葉を選ばないといけないんですけど、管理料が少し高いんじゃないかというね、見方も。その額まではいっていないということなんでしょうけども、概ね5%ぐらいですかね。毎年ね。

これは市の立場では結局10%でなければ返還を求めないということなんで、それ以下なので、今のおっしゃったとおりでよろしいと思うんですけど、もう少し何か努力はできるというか、そういう、逆に言うと指定管理料を少し減らしてもいいというご意見はないわけですかね。意見と言ったらおかしいんですけど。

○高橋部会長 変動の枠を見込んでいるのかもしれませんが、10%というのは。

○岡田委員 5年間、ある年度は赤字だったけど、ある年度はプラスだったとかね、だからこうなんだというのはわかるんだけど、素人的に見て毎年毎年プラスが出ているということはあれですよ。

○高橋部会長 私、発言したほうがいいですかね。企業努力して常にこういうところをとっていくということじゃないかなとは。

○岡田委員 というふうに少なくとも会計をやっている人は気がつかないとおかしいんじゃないですか。これを見て何にも気がつかないんですかというのはちょっと。なかなかそれはグループの立場では言いにくいんでしょうけど。

○高橋部会長 何かお答えありますか。

○始関生活衛生課長 行政側から言わせてもらいますと、本来であればですね、もともと選定のときに設定した提案額を上限に毎年の金額を協議の中で定めて収支を出しておりますので、本来であればですね、収支がゼロというのが一番ベストではあるとは思っておりますが、逆に赤が出て困るところはございますので、その辺バランスよくですね、対応していただいているというところだと思っております。

○大道委員 ちょっとお尋ねします。受け入れる件数がふえていくということで、お仕事の時間を対応をふやしていく、時間外とかですね、延長していくとかというお話があったんですけど、現実の話としてあの施設そのもの、火葬炉というのは数が物すごく多いですよ。そういうことを考える、今、全部使って火葬されているんですか。あの炉を。

○始関生活衛生課長 斎場につきましては、火葬の収骨室が4室になっていますので、16炉ありますけども、全部を一度に動かしてというのはまず無理です。その中でローテーションを、16炉をローテーションの中で動かしているの、1時間ちょっと延長すると6件ほど火葬件数がふえる形にはなりますので。

○大道委員 現状でそのぐらいの対応はできるということではわかるんですけど、例えば収骨室そのものの、もうちょっと受け入れ件数をふやすような検討というのはされるんですか。今、4件とおっしゃいましたね。同時に。

○始関生活衛生課長 同時にできるのは4室。

○大道委員 それは、その設備としてはもうそこは手をつけないという、収骨室に関しては。そこがネックというか、言い方が悪いんですけど、もうちょっとそれが増えればもっと件数は増える。

何のことを話しているかということ、これから高齢化が進んで亡くなる方がどんどんふえていくということで、例えば、お願いするほうの立場からすれば、情報としてはあの斎場はものすごく炉を持っていますよというほうが先にきちょうですよね。そうすると、行政さんもそうだと思うんですけど、その辺のことの検討というのも少しお含みいただけたらというのは、これ提案なんですけどね。

○始関生活衛生課長 現状、火葬については大体年間で算出すると82%だったかな。火葬はね。稼働率として82%で、大体、今、5年先とかちょうど指定管理者の選定にあわせてみてはいるところでございまして、当分の中では数字的なもので82%なので耐えられるというところでは今は考えてはおるんですけども、あとは施設改善ということになるとスペース的なものもあそこにつくれるかどうかというところは、ちょっと今後、検討していかなければいけないという認識は持っておりますので。

○大道委員 その含みで、すみません、よろしくお願ひします。ありがとうございます。

○高橋部会長 ご質問がなければ選定評価委員会の意見に係る協議に入りたいと思ひます。提出されている総合評価についてのご意見のほか、審査基準や仕様の変更についてもご意見ご発言いただき、次期指定管理者の選定に向けての当委員会の意見を取りまとめたと思ひます。

では、何かご発言はありますでしょうか。

○岡田委員 先ほどお話をしたように、過去の収支状況で全てプラスになっている状況を踏まえて、今後の指定管理料を決めていただきたいと思いますので、勸案していただいで。

市の立場、指定管理者の立場では、多分ね、市から言われたよりも努力して、これだけ努力したんでこれだけの利益が出たんだということももちろんあると思うのね。じゃあ、努力したらすぐ下げられてしまうんですかというところとちょっとあまりよくないんで。ただ、普通の常識的にみて、こう4年後ぐらいの数字を見て全て毎年毎年収支がプラスだったということはね、いろんな情景があると思うんですね。修繕費がかかったとかいろんなことがあるにもかかわらずプラスだったということは、指定管理料が高いというか、余裕があると思われまますので。

○高橋部会長 ほかにご意見はありませんか。

(なし)

○高橋部会長 ご意見がなければ、千葉市斎場における次期指定管理者の選定に向けての意見に関し、当部会としては次期指定管理に向け、過去の実績を踏まえて、適切な次期指定管理料を算定するよう努めていただきたい、ということですね。なかなか、私もさっき言いましたように、変な話ですけど企業というのはこう増えたり減ったりするからある程度リスクを見込んでおかないと難しいかなというのはあると思ひます、私の個人的意見ですけど。意見の方は、適切に算定していただければ、ということでもよろしいでしょうか。

それでは、その旨決定いたします。

次の議題に移りますので、出席者の入れかえと10分休憩をお願いいたします。

(出席者入れかえ、休憩)

○高橋部会長 続きまして、議題(4)「千葉市平和公園について」に入ります。

まず、施設の評価に係る資料について、事務局よりご説明願ひます。

○始関生活衛生課長 引き続き、生活衛生課でございます。よろしくお願いいたします。
インデックス3-1をお開きください。

平和公園の指定管理者年度評価シートについてご説明をいたします。

初めに「1 公の施設の基本情報」でございますが、施設名称は千葉市平和公園。条例上の設置目的、ビジョン等及び所管課につきましては記載のとおりでございます。生活指標は、墓地使用者へのアンケートにおける利用者満足度、数値目標といたしましては、8割以上の墓地使用者が窓口対応及び施設管理に満足していることでございます。

次に「2 指定管理者の基本情報」でございます。指定管理者名は平和公園パートナーズ、構成団体は西武造園株式会社を代表企業としたイオンディライト株式会社との共同事業体でございます。指定機関等は記載のとおり、令和5年3月までの5年間でございます。

次に「3 管理運営の成果・実績」でございます。

(1) 成果指標に係る数値目標の達成状況でございますが、成果指標としては当初に設定いたしましたアンケートによる利用者満足度8割以上としておりますが、平成30年度につきましては、回答者の96.5%の方から満足との回答をいただいております。

次に、(2) その他利用状況を示す指標でございますが、平成30年度の実績といたしましては、収蔵証明など各種手続数が5,328件、園内巡回バスの利用者数が2,608人となっております。

次のページをお願いいたします。

次に「4 収支状況」でございます。

(1) 必須業務収支状況ですが、ア、収入実績として指定管理料の実績額は1億5,660万円で、計画との差異はございません。このほか、その他収入として、設置者から徴収する自販機の電気使用量9万3,000円、合計で1億5,669万3,000円となっております。

次に、下の表、支出の実績ですが、実績額は人件費が5,616万円で、その下、事務費及び管理費が1,917万6,000円、委託料が5,869万4,000円、その他事業費として、業務開始時に事務机等の購入費用として37万7,000円、間接費として下の表に記載しておりますが、本社経費を全体経費の10%として、1,566万1,000円で、合計で1億5,006万8,000円となっております。計画との差異ですが、合計でマイナス653万2,000円で、この差異の主な要因ですが、電気設備等の維持管理業務を一部外部委託として経費の縮減が図れたものでございます。

次のページをお願いいたします。

(2) 自主事業の収支状況ですが、指定管理者におきましては、墓参用の花の販売や園内でのケータリングカーの出店など各種自主事業を行っております。その収支状況になります。収入の実績額は5万3,000円、右の表、支出になりますが、合計で86万2,000円となっております。

次に、(3) の全体の収支状況ですが、二重線の上になりますが、収支は581万6,000円の黒字となっております。利益還元につきましては、剰余金の金額が当該年度の総収入額の10%を超えていないため還元はございません。

次に「5 管理運営状況の評価」でございます。

(1) 管理運営による成果・実績についての市の評価でございますが、評価項目を墓地利用者へのアンケートにおける利用者満足度で8割以上の使用者が満足していることとしておりまして、市の評価はCとしております。ただし、特記事項に記載しておりますが、アンケートの回収数が少ないことから回収方法の創意工夫や、アンケート以外での利用者の評価の把握についてということで記載をさせていただいております。

次のページをお願いいたします。

(2) 市の施設管理経費縮減への寄与ですが、選定時の提案額1億5,660万円に対し、決算額が同額となっておりますので、下の点線囲みの評価内容に従い、Cと評価としております。

次に、(3) 管理運営の履行状況ですが、指定管理者の自己評価と市の評価ともに、「2 施設管理能力」の(1) 人的組織体制の充実について、墓地管理士の配置など、市の求める水準以上の提案について、提案どおりに履行されていたことなどによりB評価、その他の評価項目につきましては、C評価、概ね管理運営の基準どおりの実績・成果との評価をしております。

次に、(4) 選定評価委員会の意見を踏まえ対応ですが、平成29年度の選定時に運営には地元業者の活用を検討し、育成に努められたいとのご意見をいただきました。このご意見の対応として、植栽管理において地元の造園組合に委託するなど、地元業者の活用を図っております。

次に「6 利用者ニーズ・満足度等の把握」についてご説明をいたします。

(1) 指定管理者が行ったアンケート調査の結果についてご説明をいたします。

まず、実施内容ですが、調査方法は来園者に所定のアンケート用紙を配布、回収しており、回答者数は、アンケート用紙での回答は46件となっております。アンケートの質問項目は、事務所管理スタッフの対応を初め7項目としており、結果については、満足あるいはやや満足との回答が96.5%となっております。

次に、(2) 市・指定管理者に寄せられた主な意見・苦情と対応についてですが、指定管理者に寄せられた苦情として、隣接墓地の管理不足についてのものが40件で、対応いたしましたは使用者に連絡をとり対応を依頼し、苦情者へ報告を行っております。また、共用部分の植栽管理につきましては、直営でできるものは即対応するなどとし、対応が難しい場合には丁寧な説明を行い理解を得ているというところでございます。市に寄せられた苦情では、彼岸時には24時間開門としているところを前日の夕方に閉門してしまったもので、前日の引継等を明確にし、再発防止に努めているところでございます。

次のページをお願いいたします。

最後に「7 総括」でございます。

(1) 指定管理者による自己評価についてですが、総括評価はCでございます。指定管理者の所見といたしましては、指定管理初年度であったが、千葉市とのスムーズな引き継ぎ・支援があり、大過なく管理運営ができた。但し、車両門を24時間開放時に誤って閉門してしまうなど、来園者にご迷惑をお掛けすることがあったので、改善を図っていく。

自主事業に関しては、当初計画よりずれ込んだが年度内事業開始ができた。墓所管理代行サービスは受注までには至らなかった。今後は実績とお客様のニーズを踏まえ、事業内容の見直しを行いながら拡大を図っていくという内容になっております。

次に、(2)市による評価でございますが、評価は概ね市が求める水準に則した良好な管理運営が行われていたという内容のCとしております。所見といたしましては、制度導入の初年度であり、植栽等に係る現状把握及び作業計画の立案など難しい対応が迫られる年度ではあったが、概ね良好に管理運営がされていた。特に利用者サービスの面では、循環バスサービスなどで状況に応じて巡回頻度を増やすなどの対応を図り、2,608人の利用者につながった。また、ホームページの活用により、施設の周知に関して創意工夫が見られた。今後は各種自主事業をより充実させることを期待したいとの評価をいたしました。

平和公園の年度評価の説明は以上でございます。よろしくお願いたします。

○高橋部会長　　ありがとうございました。

それでは、まず質疑応答から行いたいと思います。それでは、ご質問がございましたらお願いたします。

○酒井副部会長　委員の酒井です。

循環バスサービスの利用が2,608人ということなんですけど、この人数は365日で割ると10人を切るというところで、多いか少ないかという考え方があると思うんですが、この循環バスサービスについては、市としての評価は具体的にどのような評価というふうに考えていらっしゃるでしょうか。

○始関生活衛生課長　循環バスにつきましては、実際、4月から始めてはおりませんで、6月からモデル的に実施をして7月から実際、運用開始しているというところで、当初はですね、そんなになんじやないかというようなご意見もあったんですが、2,600を超える数ですので、かなりの利用数はあったなと思っております。一応、その部分も評価をした中で、概ね管理、計画どおりの運営がなされたということでC評価をつけさせていただいているというところでございます。

○岡田委員　　5ページの、市・指定管理者に寄せられた意見・苦情の対応というところの隣接墓地の管理不足というのがありますよね。これは中の隣ですかね。

○始関生活衛生課長　平和公園、区画数も多くてですね、実は、墓参に来られてないようなお墓も結構ございます。木がちょっと伸び放題だったり草が伸びて隣に越境したりというものがございますので、その辺の苦情がちょっと寄せられているというところでございます。

○大道委員　　少し細かなことなんですけど、今の件と重なりまして、今、そのお墓を管理するほうに困っているのは連絡をしたくても連絡がつかないというお宅がかなりふえてきていて、結果的に単年度じゃなくて、かなりの期間もうそこに人が来ないというような状況がふえてきているということを聞いているんですけども、実際にここでは、ただ来ないのか、具体的にはどうなのかということは把握されていますか。

○始関生活衛生課長　　実際、平成24年からですね、墓地のほうにつきましては管理料を徴収している関係で毎年ですね、通知を送って料金の振り込みということで納付書の発送をさせていただいて、そこで振り込みのない方についてはこちらのほうから所在の確認をとったりですね、戸籍の調査をしたりということで調査を進めてはいるところでございまして、大体、桜木と平和を合わせてですね、1,000区画ほどありますので、こちらにつきましては調査を進めてですね、承継の意思の確認を行って進めているところでございます。

○大道委員 実際には、管理しているほうからとか市から、もうここは契約できませんとか、切れますよというような、そういうことにはまだ至っていないということですね。

○始関生活衛生課長 はい。こちらのほうからですね、使用の停止とかということはまだしてはいません。ただ、桜木霊園につきましては、昭和14年に開設しておりますので、墓埋法の手続に従ってですね、51区画について未承継ということで処理をさせていただいているところでございます。

○大道委員 全体の数としてはかなりの数がありますよね。今、1,000件とおっしゃいましたけど。その墓石というか墓地の数としては。何千とか万まではいかない。

○始関生活衛生課長 墓地の区画数としては、平和がですね、3万800ぐらいですかね。

○大道委員 そのうちの1,000件ぐらいですか。

○始関生活衛生課長 先ほどの数字は、桜木と合わせての数字になりますので、今年の4月末の時点で承継の確認中というものが、平和公園では921区画になっております。

○大道委員 わかりました。そんなに多くはないんですね。実際の数としては。

私、もっと多いと思ったんですけど。というのは、私の上のほうの姉の墓地に行ったときに、そこ、お坊さんがいるんですけど、住職さんが嘆いていて、本当にほったらかしで、墓地としての機能がもうない。ただ、そっちは民間ですので何かできるんだと思いますけど、こういう公設のところというのはそういうことに関しての何か取り組みというのを将来的に検討されるということになっているんですか。

○始関生活衛生課長 まだですね、そこまではいってはいませんので、まずは管理料の収納の観点でご連絡を差し上げて承継の意思の確認をとるというようなところで進めていければと思っております。

○大道委員 費用は市のほうで管理料は入るんですけど、実際にその管理をされている方のほうのその現状というのとは差異はあんまりないんですね。今の報告だと管理料で把握しているけど、実際管理されている委託をしているところのお話などは耳に入っているんですか。もう状況的にこうだとか。そういうお話はあんまりなさらない。

○高橋部会長 管理料は払っているんだけど、木が生えていて1回も来ていないという、そういうケースですよ。

○始関生活衛生課長 そうですね。ちょっと墓参の状況までの確認はちょっととれてはいないんですけども、先ほどもちょっとご説明しましたが代行サービス、今、指定管理者のほうで取り組んではもらっているんですが、ちょっと思わなかったというところで。

あとは平和の場合、門前に石材商組合がございまして。石材商組合の中でも代行墓参というのを、今、実施をしているところで、ただ、その状況というまでの把握はちょっとできてはいないです。民間、その他もですね、インターネットとかで年間8,000円程度で墓参代行とかというのをやられているようですので、そういったのが普及してくる時代になったのかなというところはちょっと考えてはいますけど。

○大道委員 ありがとうございます。

以上です。

○高橋部会長 ほかにご質問ありますでしょうか。

○酒井副部会長 アンケートの回答者が46件ということなんですけど、これ私見とし

ては少ないのかなと思うんですが、件数的には少ないとお考えですか。

○始関生活衛生課長　　ちょっと意見の中に、特記事項のところにも書かせていただいたんですが、我々としてはやっぱりもうちょっと件数を増やしていただきたいなということでそういう工夫を図ってもらえればということで考えてはいます。

今、アンケート用紙を配布してそれを回収するという形だけでのものになっていますので、その他の手法等も検討していただきたいなというところで、特記事項に記載をさせていただいたというところでございます。

○酒井副部長　　増やす方法とかについて具体的な方策というのはあるんですか。指定管理者の方とかと話をしているんでしょうか。

○事業者　　平和公園パートナーズの笠巻といいます。平和公園管理事務所の所長をやっております。

今のご質問に対しての回答なんですけども、一つは園内にいらっしゃる方の聞き取り調査という形でアンケートの内容そのものにはなるんですけども、聞き取り調査等で、配付ということではなくて聞き取りをさせていただいて、それに対して回答いただくということの一つ。まだちょっとやれてはいないんですけども、そういうことを考えております。

○高橋部長　　ほかにご質問ありますでしょうか。

○酒井副部長　　指定管理者の方いらっしゃったので、先ほどの質問なんですけど、循環バスって、実際に人が乗っていないで動いているときってあるんでしょうかね。

○事業者　　はい、そうですね。朝9時からですね、今の期間ですと17時まで。12時を除いて1時間置きに定時で事務所前を発車・運行しておりますので、ご利用さんがいらっしゃらない場合でも運行しております。

○酒井副部長　　その所長をやってらっしゃった実感として、空で動いている場合の割合も結構あるなというふうに思っているんでしょうか。

○事業者　　循環バスそのものに関してはですね、園内の巡回も兼ねているようなところもございまして、ご利用さんがいらっしゃらない場合でもですね、それなりのそういう巡回という目的を達するという意味で効果は上がっているのかなというふうにみています。

○酒井副部長　　そうするとその循環バスの目的は、お客さんを乗せることと園内の中を見回ることという目的が二つあるという理解なんですか。

○事業者　　そうですね、はい。

○酒井副部長　　市としてもそういうものとして理解している制度なんですか。

○始関生活衛生課長　　巡回も兼ねてということで承知はしております。

ただ、議会のほうからもですね、実は、この提案がまだちょっと周知ができていないというところもあるんですけども、よく高齢者の方がお乗りになる電動カーですか、あれの配置とかというのを求められているところで、一応、今回指定管理が始まって、循環バスというのを初めてやっていますので、そちらのご利用をということでご理解もいただいているところでございまして、まだまだ1年目というところで、場所柄、皆さんお車で来る方もいらっしゃいますけども、バスで来る方も中にはいらっしゃいますので、そうした中でちょっと周知をしっかりと行っていけば数も伸びてくるかなというところでございます。

○酒井副部長 単純な素人考えなんですけど、バスじゃなくてタクシーみたいに指定の場所に送迎すればいいんじゃないかなと思ったんですけど。その資料を見させていただいたときに。何かそれであれば空車でぐるぐる回っているよりも実益は高いんじゃないかなと思ったんですけど。人数が多い時は定期的なバスでも、3月の時点とかはいいと思うんですけど、それ以外の月はもう人数が1桁、月で見ても1桁しかないということはくるくるくるくる回っているだけであれば、むしろその一人の人をこうやってタクシーで送ってしまったほうがいいんじゃないかなとかと、素人考えで思ったんですけど。

○始関生活衛生課長 平和公園については園内がですね、ほとんどが一方通行のところになっていますので、なかなか次のお客さんが来た時というのは対応がとりにくいというのがまず一つ。それからあとは、ここまでのバスの運行状況、これにあわせてですね、運行していけばもうちょっとうまくつながれるんじゃないかなというところはちょっと考えてはいるところです。

○酒井副部長 わかりました。

○高橋部会長 ほかにご質問は。

それではご質問がなければ、選定評価委員会の意見に係る協議に入りたいと思います。

それではまず、指定管理者の倒産、撤退等のリスクを把握するという観点から、指定管理者の財務状況についてご意見を伺いたいと思います。

指定管理者の財務状況については、まず岡田委員より専門的見地からのご意見をお聞きしたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

○岡田委員 まず、西武造園さんの69期、2019年3月31日の決算期の決算書があります。こちらはですね、調べたところ西武鉄道さんの100%子会社で、財務内容は良好であると思われまます。

それからもう一つの会社のイオンディライトさんは、その後ですかね、2019年2月28日の決算書がついております。こちらのほうは、結論的には財務内容適正なんですけども、一応、あんまり見たことないことがありまして、ちょっとそれだけ。120ページのところでですね、株主資本等変動計算書というのがついていまして、この真ん中のところですけどね、利益剰余金というところの繰越利益剰余金が、595億4,763万8,750円。その下にですね、マイナスで73億3,156万9,381円。これは例の東芝さんのときにあったんですけどね、一応、決算が間違っていた場合に直すんですよ。そういうやり方なんですよね。この全体の数字からしたら少ないのでいいんですけど、ただ、こういう誤謬の訂正をしているというのが決算書の中で出てきたので、ちょっと私のメモに書いてあるんですけど、別に全体の財務状況がおかしいというわけではありませんので、そういう、なんか私も見ていて、あっ、こういうこともあるんだなと思ってちょっと気がついたので。カレンダーの決算の修正みたいなのをしているのが出てきたということなんで。全体の数字としては良好でありますので。

以上でございます。

○高橋部会長 ありがとうございます。

ただいまのご意見を踏まえ、他の委員の皆様から何かご意見がございましたらお願いいたします。

(なし)

○高橋部会長　それでは、千葉市平和公園における指定管理者の財務状況に関し、当部会の意見としては、良好であるという趣旨でまとめさせていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。良好ということで。

(はい)

○高橋部会長　ありがとうございました。

それでは、その旨決定いたします。

続きまして、指定管理者による施設の管理運営について協議いたします。

ここでは、管理運営のサービス向上や業務効率化の方策、改善を要する点、また、評価する点などについて、ご意見をお聞きしたいと思います。

それでは、何かご意見はございますでしょうか。

○岡田委員　さっきから話題に出ている、そのバスの件なんですけど、費用的にはどのくらいかかっているんですかね。その運行する。まあ、難しいんでしょうけど、人件費とそのガソリン、運営費用があるんでしょうけど、概略で結構ですけども。

○事業者　はい。実際の車両としてはですね、トヨタ・ハイエースとあって、10人乗り、バスとは言っていますが、10人乗りの乗用車を使っておりまして、こちらはリースで借用しているのと、あと、ですから、費用的にはリースの料金とそれからガソリン代と、運転手はですね、専任ではなくて事務所内の受付業務と兼務する形で二人、交代で運用するような形で運用しております。よろしいでしょうか。

○岡田委員　そんなリース料と車両の、あと人件費については兼務の方がやっているとわかりました。はい。

○高橋部会長　ほかに。

○酒井副部会長　アンケート調査に関しては、数値目標の前提でもあると思いますので、もうちょっと件数を集めないと、その数値目標の達成の有無の判断が正確にならないと思っているんですけれども、そういった意味ではアンケート調査を件数を増やすなりという努力はすべきかなというふうに私は思うんですが。いかがでしょうか。

○高橋部会長　ご意見としてでよろしいですか。何かありますか。はい。

○始関生活衛生課長　市のほうの評価の中にも、特記事項で書かせていただいているので、それは入れていただいてよろしいかと思います。

○大道委員　5ページの(2)に指定管理者に寄せられた主な意見・苦情と対応というところなんですけど、最近のニュースなんかでもあるんですけどね、とてつもない苦情なんていうのはあることはありますか。内容的なものとか、あるいはちょっと話が違うんじゃないとか、電話を受けた方とか連絡を受けた方が困ってしまうようなそういう苦情とか、そういうことの経験はありますか。

○始関生活衛生課長　大小さまざまございます。例えば、承継もですね、これまで使用者が亡くならないと、承継ができないような条例・規則になっていまして、その点については墓地管理料の観点からもちょっとやっていかなければならないということで、今年の4月からちょっとかえさせていただいたところです。そういったのがちょっと使用者が高齢化してきているというところで、そういったのもちょっと散見されたというところ。

それから、今、指定管理者の中でケータリングカーというのをちょっと出させていただいてやっているんですが、墓床の場所でその販売をするのがいかなものかというような

ご意見はいただいています。

○**大道委員** 常識に反するような、何かものの言いようとか何かということに遭われていることはあまり把握されていないということですか。

○**始関生活衛生課長** ご理解いただけない方というのはいろんな場面で出ていらっしゃると思いますので、丁寧な説明をしながらですね、対応は図っているところがございますけども、中には強硬に出られる方というのはいらっしゃいます。

○**大道委員** 市のほうでは、市の職員の方はそれなりの対応策というのは考えておられると思うんですけど、これ、実際に管理されているほうの方が一人でそういうことを受けてしまうというようなことに対して、実際に管理されているほうの方は何か手を打たれているんですかね。そういうことがあったときに。一人の人がどっぶりつかっちゃうというようなことにはならないように。

○**事業者** 対応という形ではですね、ちょっと電話に対してはちょっと難しいんですけども、ご来所された方の場合には最低でも二人でお話を伺うという形にしてですね。

○**大道委員** そのときの記録は残しておられるんですね。

○**事業者** はい。

○**大道委員** ありがとうございます。

以上です。

○**高橋部会長** ほかにご意見ありますか。それでは、ご意見がなければ、千葉市平和公園における指定管理者による施設の管理運営に関し、当部会の意見としては、利用者満足度の把握をアンケートの回収等を含めてさらに一層推進していただきたいというふうにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(はい)

○**高橋部会長** ありがとうございます。

それでは、その旨決定いたします。

引き続きまして、議題（５）「募集要項等に対する意見について（千葉市斎場）」です。ここからは非公開となりますので、事業者の方は退席をお願いいたします。

（事業者退室）

○**高橋部会長** 傍聴人はいらっしゃいませんので、このまま続けます。

それでは、審議に入る前に、資料の取り扱いについて事務局から説明をお願いいたします。

○**白井保健福祉総務課長** それでは、議題（５）募集要項等に対する意見について、千葉市斎場に係る進め方と資料の取り扱い方についてご説明をさせていただきます。

お手元の資料の右上、資料５「部会（募集要項等に対する意見）の進め方」をご覧くださいと思います。資料５でございます。

本件は千葉市斎場の次期指定管理者の選定に向けまして、公募の内容を示した募集要項案や指定管理者が行う業務の詳細を示した管理運営の基準案などについて、ご審査をいただくものでございます。まず、進め方ですけれども、施設所管課からそれぞれの内容につきましてご説明をさせていただきます。その後、質疑を行いまして各委員からご意見をいただきたいと思います。

次に、資料の取り扱いについてでございますけれども、今、委員の皆様のお手元にお配

りしてございます資料の2-6から2-9。それから参考資料の2-4につきましては、千葉市情報公開条例の第7条に規定いたします不開示情報を含んでおりますので、本日の部会終了後にこの資料は回収をさせていただきたいと思っておりますので、あらかじめご了承ください。

説明は以上でございます。

○高橋部会長 はい、ありがとうございます。

続いて、施設所管課からの説明をお願いいたします。

○始関生活衛生課長 引き続き生活衛生課でございます。よろしくお願いいたします。

千葉市斎場指定管理者の募集条件、選定基準等についてご説明をいたします。

本来でございますと、先ほど、いただきました次期指定管理者の選定に向けてのご意見を反映した上で、募集条件、選定基準等の案を作成いたしましてご審議をいただくところでございますが、本日の総合評価とそれから次期指定管理者公募に係る募集要項、選定基準などについてご審議いただく時期が近接しておりますので、本日、先ほど総合評価でいただいたご意見を踏まえましてご審議いただくものでございます。

また、前期の選定の際とは指定管理者制度を所管をしております業務改革推進課において選定方法や様式が変更となっておりますので、ご説明をさせていただきます。

それでは、インデックス2-6「千葉市斎場指定管理者募集要項案」の主な点についてご説明をさせていただきます。インデックス2-6になります。

初めに、3ページをちょっとお開きいただきたいんですが。

「3 公募の概要」の(2)指定期間でございますが、令和2年4月1日から令和7年3月31日までの5年間としております。これは千葉市指定管理者制度の運用ガイドラインによりまして、指定期間は原則5年と規定されているものでございます。

(4)選定の手順でございますが、公募から選定までの手順について整理をしておりますが、事務局では、今後、10月下旬に予定されております第2回のこの部会で指定管理予定候補者の選定に向けて記載のスケジュールどおり進めてまいりたいと考えております。

次に「4 管理対象施設の概要」の(1)設置目的等から(3)施設の概要につきましては、先ほど年度評価、総合評価と同様でございますので、ご説明については割愛をさせていただきます。

次のページをお願いいたします。

(4)指定管理者制度導入に係る市の考え方ですが、本施設では指定管理者制度導入による利用者サービスの向上により、施設利用者の満足度を向上させる効果を見込んでおります。指定管理者には民間事業者のノウハウを活用し、施設利用者の満足度を向上させることを期待しているところでございます。これに関しまして、市が指定管理者に求める成果指標及び数値目標につきましては、施設利用者へのアンケートにおける利用者満足度の結果として8割以上の墓地使用者が窓口対応及び施設管理に満足していることとしております。なお、このアンケート結果につきましては毎月の指定管理の月次報告にあわせ報告をさせることを予定しております。

次に「5 指定管理者が行う業務の範囲」でございますが、(1)指定管理者が行う必須の業務といたしまして、ア 施設維持管理業務、イ 施設運営業務、次のページの、ウ その他の業務に記載しております業務を想定しております。

次に「6 市の施設等との関係」でございますが、(3) 市内雇用、現在の施設職員の継続雇用への配慮及び障害者雇用の確保につきまして、仮に次期指定管理者が現在の事業者と変更となった場合でも、現在施設で働いている従業員で本人が変更後の事業者でも継続雇用を希望する場合には、指定管理者に対し雇用の配慮を求めることとしております。

次に、9 ページをお願いいたします。

ページの下段、「8 応募に関する事項」でございますが、(1) 応募資格につきまして、業務改革推進課が全庁的な統一ルールとして定めております、指定管理者制度運用ガイドラインがございますが、施設の特性などを考慮し変更することができることとしておりまして、応募資格に次のページ、「サ 最近3年間に火葬場の管理運営業務の実績があること」、また、「シ 一般貨物自動車運送事業の認可を受けていること」を追加してございます。サにつきましては、安定した施設運営を目的として火葬場の運営実績を求めるもので、シにつきましては、霊柩車に係る業務が指定管理業務に含まれていることからその実施に当たり必要な認可を求めるものでございます。

次に、14 ページをお願いいたします。

「9 経理に関する事項」ですが、本施設につきましては、指定管理者が使用者から利用料を徴収する収納する利用料金制ではないため、施設の使用料や各種証明の発行手数料等は全て千葉市の歳入となります。従いまして、(1) 指定管理者の収入として見込まれるものにつきましては、指定管理料のみとなります。指定管理料ですが、先ほどもご説明したとおり、指定期間5年間の指定管理料の上限額は消費税及び地方消費税相当額を含めて、19億6,270万5,000円としております。これは、第3期の指定管理料の実績を元に人件費等に係る経費に物価上昇率を見込むとともに、火葬件数の増加における技術者の増や経年劣化に伴う修繕等を見込んだ額となっております。

なお、応募時の提案額がこの上限額を越えますと失格となります。また、市が支払う指定管理料は、指定管理者が応募時に提案した額ではなく、これを上限として毎年度、市と指定管理者との協議の上決定するものとなります。

次に、15 ページをお願いいたします。

下段の、「10 審査選定」でございます。こちらは、後ほど資料2-9、千葉市斎場指定管理予定候補者選定基準案の説明にあわせてご説明をさせていただきます。

続きまして、インデックス2-7をお願いいたします。2-7でございます。

「千葉市斎場指定管理者管理運営の基準」についてでございます。こちらは指定管理者が行う業務の詳細と業務に対する千葉市の要求水準が記載されている、いわゆる仕様書に当たるものでございます。内容につきましては、業務の詳細及びその仕様となっておりますので、説明については割愛をさせていただきます。

続きまして、インデックス2-8「様式集」。千葉市斎場指定管理者指定申請書類をご覧ください。インデックス2-8でございます。

こちらにつきましては、ぺらぺらとちょっとめくりながらご覧いただければと思うんですが、応募者は千葉市斎場管理規則の様式第5に規定する指定管理者指定申請書のほか、これらの様式集で定める各種添付書類、提案書一式を提出することとなります。なお、各様式の説明についてはちょっと割愛をさせていただきます。

続きまして、インデックス2-9になります。

「千葉市斎場指定管理者予定候補者選定基準案」についてでございます。この選定基準案は応募団体から提出された提案書等を応募要項等の内容に基づき、本選定評価委員会が総合的に評価するための基準案としてお示しするものでございます。

初めに、1ページをお願いいたします。

「1 審査方式」の(1)形式的要件審査でございます。本書、2ページ下段に記載しております、「2 形式的要件審査」に基づき、各応募者が応募資格を満たしているか失格要件に該当していないかを事務局で確認した上で委員の皆様にご報告をさせていただきます。

左のページにお戻りいただきまして、(2)提案内容審査の、ア 審査の概要についてですが、提案書を含む応募書類の記述内容について本書の採点基準に基づき委員の皆様の評価と採点を行っていただくこととなりますが、一部の評価を必要としない審査項目につきまして、あらかじめ定めた基準により事務局で機械的に採点した上で委員の皆様にご報告をさせていただきます。また、採点された点数は審査項目ごとに委員一人当たりの平均値を算出した後、合計して総合点を算出し、総得点が最も高い提案を最優秀提案として選定をいたします。なお、同点を含め、総得点の差が満点の1%以内であるときは、選定評価委員会における合議により順位を決定することとなります。

次に、参考資料のインデックス2-4の裏面をちょっとご覧いただきたいんですが、ちょっと文字が小さく見づらくて恐縮ではございますけれども。

選定基準の審査項目及び配点についてでございます。表の左に示しておりますのが、全庁的な統一ルールのみな形とよばれるものでございます。右が本施設の選定に当たっての審査項目及び配点となります。網掛けの部分が変更したものでございます。

指定管理者の選定に当たっては、先ほどもご説明したとおり、市議会からも選定に当たっては経費の削減という観点だけで次期指定管理者を選定することがないよう、慎重な対応を要望するのご意見をいただいておりますことから、ひな形をもとに指定基準の5の経費の縮減の配点割合を少し下げまして、2の施設の管理を安定して行う能力を有することの項目につきまして重視した配点としております。

基本的には各審査項目に原則として5点を配点しておりますが、本施設の選定におきましては、施設の特性により重要な審査項目につきまして配点を高くしており、表の一番下、150点満点での採点をお願いしたいと考えております。

なお、指定基準の一番下、「6 その他市長が定める基準」につきましては、指定管理者制度運用ガイドライン上、原則として各項目3点を配点とすることとされているため、一部の項目を除き3点を配点しております。

全市的に定める標準的な審査項目に追加した審査項目は、2の(9)火葬炉設備の管理運営方法と、6の(5)周辺住民との良好な関係維持への配慮になります。本施設は火葬炉という、ほかの公共施設にはない特殊な設備を有していること、また、施設の正確性・周辺住民の方のご理解が特に重要な施設であることからこれらの項目を追加してございます。

反対に、本施設は指定管理者の努力で利用促進を図る施設ではないことから、施設の利用促進にかかる項目を全市的に定める審査項目から削除しております。

また、自主事業の実施を事業内容に含めていないことから、自主事業に係る項目につき

ましても削除をさせていただいております。

同じように先ほど申し上げたとおり、本施設は利用料金制を採用していないことから、利用料金に係る項目についても削除をしております。

恐縮ではございますが、インデックスの2-9にお戻りいただきまして、2-9の5ページをお願いしたいんですが。

イ 審査項目の配点の考え方でございます。この表に記載のある項目につきましては、本施設の指定管理者の選定に当たっての重要審査項目として考え、各項目10点を配点しております。

初めに、2の(1)同種の施設の管理実績ですが、斎場という特殊な施設の管理運営を指定期間初日から円滑かつ安定的に行うためには、これまでの実績に基づく専門的な能力・ノウハウを有していることが重要であると考え、10点としております。

次に、2の(3)管理運営の執行体制についてですが、火葬場という施設の特性上、業務に滞りがあってはならない施設であることから、十分な管理運営に対する人員配置が確保されていることが重要であると考えまして10点としております。

次に、2の(8)設備及び備品の管理、清掃、警備等でございますが、施設の安定運営のためには、各設備の管理等が重要なものであると考えられるため10点としております。

次に、2の(9)火葬炉設備の管理方法、こちらにつきましても施設の安定運営のため、指定管理者においては火葬炉という特殊な設備の管理について精通している必要があることから10点としております。

次に、4の(4)施設の事業の効果的な実施につきましては、本項目は火葬場、式場、霊柩車、祭壇の貸し出しなど具体的なサービス内容を提案させる項目でございまして、利用者サービスに直結するものであることから10点としております。

次に、5の(1)収入支出見積もりの妥当性ですら、提案に当たって適切な支出見積もりをしなければ本施設の管理運営を適正に行うことができないと考え10点としております。なお、本項目につきましては、提案額の多寡を評価するものではなく、あくまで業務履行の前提となる見積もり妥当性を検証し審査していただくものとなります。

最後に、5の(2)管理経費でございますが、「管理経費の縮減」は「市民サービスの向上」と並ぶ指定管理者制度の目的の一つである一方で、過度なコスト削減によって市民サービスが低下することがないように注意しなければなりません。この点を踏まえすと、全市的な方針に基づく配点割合である満点の5%以上、20%以下の範囲以内として10点、全体の6.7%としております。

次に、6ページをご覧ください。

ウ 審査項目の審査・採点方法ですが、一部の審査項目を除き、8ページ以降に記載の採点基準を参考に各委員の皆様にご覧いただきAからEの5段階で評価を行っていただいた上で採点していただくこととなります。なお、過半数の委員が「D」の評価をし、又は一人以上の委員が「E」の評価をした場合、選定評価委員において協議をし、当該応募者を失格とすることが相当であるか否かを判断することとなります。

また、全ての委員が「E」の評価をした場合は当該応募者につきましても失格となります。

次に、上記原則によらない審査項目ですが、委員による評価を行わないものにつきまし

ては、本書に記載された基準により、機械的に得点が定まるものであるため、原則として事務局で採点を行い委員の皆様へ報告をさせていただきます。ただし、事務局の採点におけるこの基準の適応事態に疑義がある場合は選定評価委員における謀議によりこの基準の範囲内で採点を修正できるものとなっております。

次に7ページをお願いいたします。(2)採点基準ですが、7ページから16ページまでにわたり、各審査項目の評価の基準、配点、該当する提案書の様式番号について記載をさせていただきます。

最後に少し飛びますが、16ページをご覧ください。

参考といたしまして先ほどご説明をいたしました(1)本施設の設置目的、ビジョン・ミッション並びに(2)指定管理者制度導入に関する市の考えを再掲してございます。

駆け足の説明で恐縮ですが以上でございます。

○高橋部会長 ありがとうございます。それでは質疑及びご意見を伺います。

○酒井副部会長 応募資格のところで最近3年間に火葬場の管理運営業務の実績があることというのは今回加えたのでしょうか。

○生活衛生課 前は火葬炉の安定運用のために前回及び前々回以前からもこちらの要件は入れている状況でございます。

○高橋部会長 実際に最近3年間の実績があるかなしかで応募できるかできないかを条件とすることで新規の参入者みたいなのはほとんどいなくなったりとか、そういった弊害はないのでしょうか。

○生活衛生課 やはり火葬業者に関しましては、止めることができない重要な業務でございますので、その条件を付させていただいているところでございます。新規の応募者の拡充というところも必要かと思いますが、この条件は付せさせていただいているところでございます。

○始関生活衛生課長 今期の指定管理の選定の際にも2社の応募がございましたので、その辺は問題ないものとは考えております。

○酒井副部会長 今年から初めてこの部会の委員を務めさせていただいているので、あまりこの業界を知らない立場からすると、3年間という場を設定すると全国的に同じような応募要件でやってしまうとほとんど同じ業者ないしは同じ業者のグループを組みかえて日本中でやっているみたいな状況になるんじゃないかと思って、そうすると指定管理者制度としての意味があるのかなというふうに素人としては思うんですけど、その点に対しての恣意はどういうふうにお考えになっていらっしゃるんですか。

○始関生活衛生課長 そういったご懸念もあるとは思いますが、まず審査項目の一つでございますので、応募は今まで、現状の指定管理の中でも2社ございましたので、我々としては火葬が今も件数的にはどんどん上昇している中で安定的な運営というのはどうしても切り離せないものでございますので、必要なものと考えているところでございます。

○酒井副部会長 それとあと、先ほどLLPという形で応募があった場合なんですけど、決算書類とその当該施設の収支の当該施設の収支のエビデンスというか、岡田委員から指摘があるようにLLPの場合だとそのつながりがみられないんじゃないかという指摘があったと思うんですけど、そこはいかがなんでしょうか。

○始関生活衛生課長　私も経験則で申して、こんなことを言っているのかちょっとあれですけども、指定管理やっている中で、非常に悩ましいところというのは経理の関係でございまして、どうしても本社経費がよく問題になるところで、結局本社でもこの斎場運営に当たって、人件費をかけてはいるんですけども、その部分って全く見えていない部分で、本社経費として経費が予算書に載ってくるような形にはなっていないので、そこはちょっと厳しいところでは、悩ましいところではあるんですけども、基本的には先ほども申したとおりで、この経費については、継続性とそれから指定管理の撤退がないかどうか、この判断をしていただくような形になってくるので、それなりの大きな会社であれば継続性等については問題ないのかなど。要は指定管理期間として5年を設けていますので、途中で撤退するリスクがないかどうかの判断を委員の皆様にしていただければと考えております。

○酒井副部長　すなわち組合を形成している各組合員の財務状況がしっかりしていれば、5年間の継続性が担保できるというふうにみればいいという、そういう趣旨ということですか。

○始関生活衛生課長　そうですね。

○高橋部長　岡田委員、何かありますか。先ほど。

○岡田委員　あと、前回のときに申し上げたかもしれないんですけど、この千葉市税、法人税、消費税の滞納がないことって条件があるんですね。税金の滞納がないというか、そういうふうに決算書というか、税務申告書があるんですけど、そういう市のほうが要望した場合は出さないというところってどこかに入っているんですかね。例えば、ちょっと申しわけないんですけど、異議あるので決算内容をちょっと見たいので、もっとこういうのを出してくれと言った場合に指定管理者のほうが出さなくちゃいけないというのは、何かどこかにそういう条件というのはあるんですかね。それとももうこの入るときに、こういう滞納がないというところでクリアしちゃえばもうあとは撤退しないでちゃんと最後までやっていただければいいという。

○始関生活衛生課長　滞納状況につきましては、事務局のほうで実際は調査をさせていただくような形になります。できる限りの財務状況が明確になるようなものを求めはいたしますけれども。

○岡田委員　通常、滞納はありませんというのは証明書を市とか税務署も出しますので、証明書があれば間違いはないんでしょうけど、滞納がないということについては。

　あとはお答えにくいのは一般論のお話ですけども、先ほどから撤退したり何かあったとき困るので、財務内容というお話があるんですけど、例えば千葉市さんの場合でわかっている範囲で結構なんですよ、例えば過去の指定管理の方でどっかにそういう事例ってありましたか。例えば3年でやめちゃった人がいたとか。もしわかっている範囲で。

○始関生活衛生課長　今まで聞いたことはございません。

○岡田委員　ないですよ。よっぽどなことがない限りは。

○始関生活衛生課長　他の施設についても選定評価委員会を設けてそこには必ず弁護士さんと会計士さんを入れて選定をしているので、その成果というところだとは思いますが。

○酒井副部長　いろいろとすみません。評価指標のアンケートの80%、このアンケートのとり方というか、もう利益を、経費をすごい下げるということについてはむしろ市議会か

らはそればかりに集中しないでくれと言われているわけじゃないですか。そうすると残るその目標というのはこのアンケートの8割をいかに超えるかというか、実際に市民の使って良かったなというところをいかに担保するかというのが目的になっているというか、経費節減ばかりを求めるものでもないというお言葉もあったと思うので、そうすると、この利用満足度が一番重要な指標になると、それだけ重要な指標であるにもかかわらず、ちゃんとしたアンケートの収集ができないのであれば、そもそももう何を指標に成果指標にしているかということの意味もなくなるわけじゃないですか。そうやってきたときにこの、まず一つの私の思ったのは、その当該業者自体にアンケートを取らせることということ自体は問題はないのかなというものがまず一つ疑問として思ったんですけど、そこはいかがでしょうか。

○始関生活衛生課長 一応、業者にとらせるような形ではいるんですけども、その中で例えば複数の事業者が提案してきた中で、提案書にどれだけのものを入れてくるか、そこで判断をしていければとは思ってはいます。今回のもともとの提案は斎場で各棟のところにアンケート用紙を置いて待っているような形というのを提案にもともとがなっているんですけども、そこをどうやって次の応募者がどういう提案をしてくるのかということころだとは思ってはいます。

○酒井副部長 本当に一つの素人考えとしては、例えばアンケートの回収部分は千葉市が実施するとかという考え方というのはないんですか。ちょっと、あまりに突飛な発言で申しわけないんですけど。

○始関生活衛生課長 現状においては、年度評価の中でも市に寄せられたご意見という項目があるんですけども、実際運営していく中では指定管理者にペーパーでアンケート用紙をとっていますけれども、それ以外にもいろんなご意見というのはいただいているところがございます。ご意見、市のほうに直接ご意見いただいていますので、そこを市のほうで単独でやるというのも一つ手ではあるとは思いますが、とりあえずは指定管理者に求めるものとして、自分たちでどういうふうな提案を起こしてその辺のニーズ調査をしていくかというのも一つの指定管理者の力量というか、になってきますので、そこはちょっと今のところはこういった形でこういった提案が上がってくるかというところをみたいなのところがございます。

○酒井副部長 仮に私が指定管理者の立場に立った場合は、そのいいアンケートを回収してしまえばそれで実績を出したことになるわけなので、目ぼしい人に声をかけるなり、質問の仕方を上手に工夫していいアンケートだけ集めてしまえばいいということも疑問を持ってしまえばそれもできてしまうわけじゃないですか。そこが大丈夫なのかなというのがひとつと、あと例えば今の時代メールとかで、例えばホテル泊まったときに、当該ホテルからメールがきて、ご宿泊いかがでしたかといって、ぼちぼちとボタンを押して答えるみたいな方法もあつたりとか、いろんな顧客満足度を上げる方法というのは世の中に安価で回収率が上がる方法というのがあると思うんですけど、その辺の実際に利用した市民がどう思っているかというところがちゃんと把握できるのかなというのが、お聞きして思っただけですけども。

○始関生活衛生課長 行政、我々市の中でいろんな部門があつて、市民からご意見いただくようなものというのはほかの部署でもやっています。ですので、単独でうちのほう

がアンケート調査までをして何かするというよりは、指定管理者にまずは提案でどのくらい差が募集の中で出てくるかというところでやっぱり見たいところもありますし、我々としてもそれを参考にしていきたいというところはありますので、もう一つはこんなことを言っているのかどうかはわかりませんが、斎場はリピーターを求める施設ではないというところがあって、なかなかご意見をいただきづらいというところは当然あるんですけども、先ほど申したとおりで、例えば市長への手紙であったりというような制度も市のほうでは行っていますので、そういった中で意見が、利用者の意見というのが吸い上げられればいいのかなどは思っています。

○大道委員 今のこととちょっと重なるんですけど、2-9の9ページの、下から2番目の(3)番、今のお話そのままなんですけども、利用者の意見聴取、自己モニタリングの考え方(配点5点)ということで下に文章で書いてありますけども、これに関して生活衛生課さんのほうでこういうことがというようなモデルというものを検討、実際にそれを使う・使わないは別にして、項目とか内容とかそういうことにご検討というのはいかがですか、モデル的なものに。集まってからこれがいいよという今お話でしたよね。これが提出されたということに関して、それをということですけど、これ、評価ということになると物差しのものとして、その担当課でこういう項目とかあるいはその内容的にこういうのが、表現としてこういうことが入っていたほうがということのご検討というのはいかがですかね。それは集めてからの話。

○始関生活衛生課長 まずは我々としてもそれなりに実績のあるところに応募をしていたただかないと困りますので、ノウハウ的には斎場の運営に関してのノウハウというのは、事業者さんのほうがお持ちだという認識でいますので、我々でひな形を示してそのとおりという提案をされても困りますので、そこはまずは事業者のノウハウを生かしたアンケートのとり方とか項目とかをまずは見せてもらいたいと。

○大道委員 確認してもらおうと。ここに書いてある利用者意見を踏まえた自己モニタリングというのが表現としてあるんですけど、これは意味としては管理運営をするほうの物差しとして使いたいということですか。それともこれはあくまでも審査をするための書類なので、担当課さん、あるいは市役所で判断の材料としてということになるんですかね。たまたま配点5点なんですけれども、きょう三つの議題があったんですけど、そこでのアンケートというのは実際に出してくださる方の気持ちはわかるにしても、そこを利用される方の気持ちを反映した内容の項目が網羅されているということにもう少し近づいてもという気がするんですけどね。その辺のことで、このアンケートというものの難しさというのは、今、市で直にというお話もありましたし、業者さんのほうでできるだけアンケートの回収がしやすくなるようにということもあったんですけども、何を知らたいのだということの具体的なことがあってこの評価に使いますというご提案は担当課さんからはただけるんですかね、この場に。あるいは、先生方のご判断で評価してもらおうということになるんですかね。お尋ねしていることはちょっとあれなんですけども、このアンケートというのは本当に難しく、例えば休日救急診療所もそうなんですけど、具合が悪くて来た人にアンケートくださいってなかなかしづらいし、現実の話として過去に利用したことのある人で、例えばウェブサイトでさっき先生がお話になったようにこうぼちぼちというので集まってくるような、これは事業団でやってもらおうという手もあると思うんですけどね。

そのアンケートの難しさというのを反映した、それに対しての具体的な対応策を反映したそのアンケートの中身ということについて、具体的なものが何かこういう方向性だとかあればと思って伺ったんですけど。

○始関生活衛生課長 基本的には、この提案書等の中に示されているビジョンであったり、目的というものがありますので、それに則した形で利用者の満足度、これをいかに把握していくかということが主題になってくると思うんですね。

それとあとは、いただいたご意見について、その次にどうやって生かしていくか、そういったところでどういった点で提案の中身を精査ができればということでは考えてはいます。

○大道委員 具体的に数をふやすことと、内容的に網羅されたものを集めることができるという方向性でアンケートそのものについて、例えばこういう素案なんだけど、この素案についてどうなんだというような、そういう機会というのはいかがかなと思ったんですけどね。

○始関生活衛生課長 月次報告、今も指定管理者と月次報告とか、年次報告とか、協議をする場というのはいっぱいありますので、その中で例えば提案とは違う内容で、もうちょっとバージョンアップしたものでやりたいというような話し合いがあれば、それにはちゃんと応じていくような当然利用者の満足度が上がればということで、視点でやっていきますので。

○大道委員 逐次的にということになっていくということですね。

○始関生活衛生課長 まずは今のやり方がどうかということもありますけども、提案の中でどんな差が出てくるかということからはちょっと期待をしているところです。

○大道委員 ありがとうございます。

○高橋部会長 ほかに質疑はよろしいでしょうか。

○岡田委員 今後、この後あるかもしれないけど、具体的な日程というのは、ここに書いてある日程ということではよろしいんですか。先ほど日程が書いてあったんですけど、この後あるかもしれませんが、10月の。この予定どおりいくということではよろしいんですかね。先ほど、これか、公募についてということでは。

○始関生活衛生課長 2-4ですか。

○岡田委員 2-4ですかね。10月下旬ということではよろしいんですかね。それでいいのかな。日にちはあれですか、きょう決めなくていいんですか、今後。

○中田保健福祉総務課主査 具体的な日程については近日中にまたご相談をさせていただければと思います。

○岡田委員 わかりました。概ね10月下旬ということね。

○中田保健福祉総務課主査 そうですね。そのぐらいということでご理解いただければと思います。

○高橋部会長 岡田委員さんに私から2-9の5ページの審査項目の、重点的な審査項目の中の支出見積りの妥当性というところがあるんですが、先ほどいろいろ専門的にお話になっていたことを考えて、何か条件としてはこれで5番目の支出見積りの妥当性について何か加えておいたほうがいいのかそういうことはありますでしょうか。2-9の5ページですね。この点数づけした10点がついているものの中の5の(1)に支出見積りの妥

当性とありますけど、先ほど、親会社との関係とかというと、非常に会計がわかりづらくなるということについて、それを何かちゃんとわかりやすくしなさいよというようなことをつけ加える必要があるんでしょうか。

○岡田委員　　どういう形で向こうが、例えば2社でジョイントでくるのか、組合でくるのか1社が全部受けるのか、によって結構違うと思うんですよね。比較的1社だったらその会社の決算書だけ見ればいいんですからね、わかりやすいですよ。だからジョイントとかなんならなしでこっちがどういうふうになっているかというのはケースバイケースになりますね。

○高橋部会長　　そうするとそれはヒアリングのとき、2社でやるんならどういうふうにして明確にやるのかというのをきっちり言ってもらわないと。

○岡田委員　　そうですね。そうでないとこの会社が全部やって、こちらが何かをこっちに委託するとか。

○高橋部会長　　そうするとこの条件の中には今入れないでもちろんいいという。

○岡田委員　　どちらかというと、やっぱりケースバイケースになってくるんです。だから一番単純なのは1社の方が全部やるんというのだったらその決算書でも入ってくるんでしょうが、ただ、今の事例を見ると2社、3社が結構ありますもんね。

○高橋部会長　　すみません、ちょっとこれはこちらに聞いた。

○岡田委員　　いえいえ、そういうことを勘案して決めると。

○高橋部会長　　ほかにご質問とかご意見ありますでしょうか。よろしいですか。

○岡田委員　　もし1社しか応募がないときは審査なしですか。

○始関生活衛生課長　　1社でも失格要件がございますので、審査をします。

○高橋部会長　　やるということね。

○岡田委員　　だめということもある。

○高橋部会長　　わかりました。ほかに。

(なし)

○高橋部会長　　ではほかにご意見がなければ、以上で終わりにしたいと思いますけれども、事務局におかれましては本部会での委員からの示された意見指示事項について要項等に反映していただければと思います。

なお、本日の部会として決定いたしました意見の文言の整文等について、恐れ入りますが私にご一任いただければと思います。よろしいでしょうか。

(はい)

○高橋部会長　　ありがとうございました。それではその旨決定いたします。

最後に議題(6)「その他」です。事務局から説明をお願いします。

○白井保健福祉総務課長　　特にございませぬ。ありがとうございます。

○高橋部会長　　それでは本日予定されております議題については以上で終了となります。これをもちまして、「令和元年度千葉市保健福祉局指定管理者選定評価委員会第1回医療施設等部会」を閉会いたします。